

水状押引文と指頭瓦痕をもつ。14は無文深鉢の口縁部で縦位に粘土棒を置き包みこみ隆起とする。15は無文口縁下に断面三角の隆帯をもつ。16は口唇に太い刻み目を入れ口縁に押引文で三角区画をつくる。17-19は輪轡部に爪形文をめぐらす。20-25は波状文をめぐらす類で、21には2列の三角押文が、24には爪形文が著しい。26と27はひだ状指頭瓦痕がある。28は爪形、29は隆帯を含むが、30は、隆帯によるクランク状懸垂文に押引沈線をもつ。31は無文。32と33の底部には敷物痕がある。4-33は胎土に金雲母を含むがいずれも阿玉台Ⅱ式。4・6・13は古相。

34-58は勝坂系で、34-36は浅鉢で、34は三角押文間に押引きの波形を入れる。35と36は鋭い三角押文列をもち灰褐色を呈する同一個体である。37は隆帯裾に幅広押引文、区画内に押引文列、38は2列の三角押文を配する。39は三角押文で波状をつくる。40は2列の押引文を口唇下に入れるが左利き。41は幅広押引文。42は幅広押引文と三角押文のセット。43は複列の粗大三角押文。44は大型深鉢で幅広押引文と斜引押引文。45は爪形をした幅広押引文。46は2列の三角押文をもつ。47は小筒形深鉢で隆帯上にC字形文を連続させる。48は断面三角形の隆帯と突刺刺突文をもつ。49は筒形深鉢で、縦長方形区画をつくり区画内に刺穴を加

えた筒形深鉢片。50は隆帯上に刻む。51は幅広押引文と地文縄文をもつ。52は地文縄文で幅広押引文と角押波状文を加え、毛虫状文とする。53-55はRL縄文の地文のみの刷削片。56は厚手の、57は薄い無文口縁部片。58は口縁近くの突帯を欠くが、2列の三角押文が著しい。59は深鉢の口唇上の動物状把手で、土器本体との接合部周辺に三角押文をもつ。34-43は勝坂式の新道段階で44-55は崖内式段階といえる。58・59は新道式新相であろう。60・61は完形の打製石斧

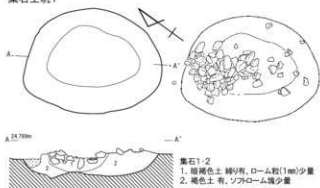
### ⑤ピット出土土器

1-3はすべてP5出土で、1は口径12cmの筒形深鉢口縁部で、縦長区画内に渦巻状隆帯と、三叉文がある。3は筒形深鉢刷削片で、渦巻隆帯上に交互刺突と刻目を入れる。これらは勝坂第三-第四様式であろう。

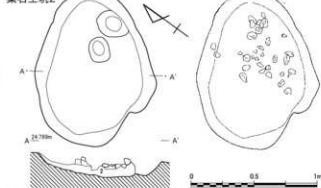
### ⑥遺構外の土器

1は山形把手で、扇状上面には押引の刻目があり、縁ぞいに斜め施文の角押文2列がある。2はクランク状懸垂文。3と4は爪形の指頭瓦痕、5はⅡ式の波状文をもつ。1-5は阿玉台Ⅱ式。6は幅広押引文と三角押文のセットで勝坂Ⅱ様式。7は細い管状工具で沈線を入れ、8は斜縄文を地文とする底部。9は無文。8-9は細分不可能だが勝坂式。細片は割愛したが加曾利E式はない。

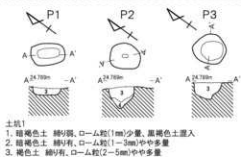
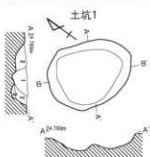
集石土坑1



集石土坑2



集石1-2  
1. 暗褐色土 練り肌、ローム粒(1mm)少量  
2. 褐色土 有、ソゾローム鏡少量



土坑1  
1. 暗褐色土 練り肌、ローム粒(1mm)少量、黒褐色土混入  
2. 暗褐色土 練り肌、ローム粒(1-3mm)中少量  
3. 褐色土 練り肌、ローム粒(2-5mm)中少量

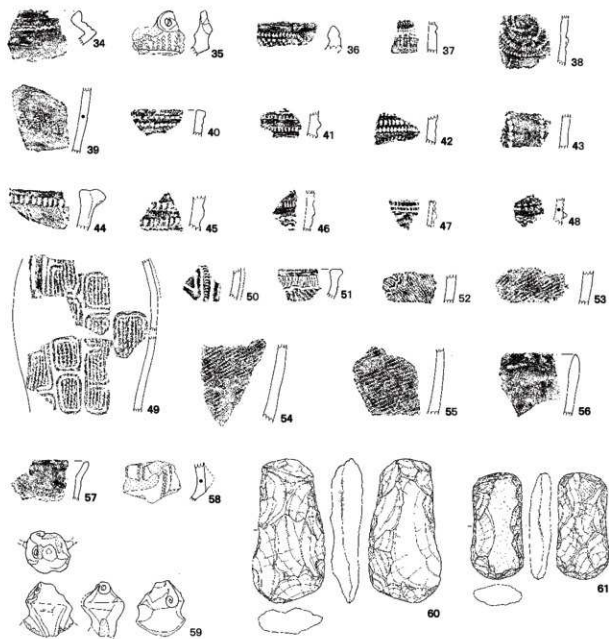


Pit  
1. 暗褐色土 練り肌、ソゾローム少量含む  
2. 暗褐色土 練り肌、ローム粒(1mm)少量、黒褐色土混入  
3. 暗褐色土 練り肌、ローム粒(1-3mm)中少量  
4. 褐色土 練り肌、ローム粒(2-5mm)中少量

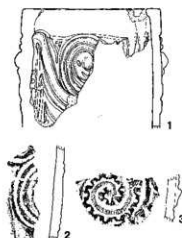
第22図 亀居遺跡第61地点集石土坑(1/30)土坑・ピット(1/60)



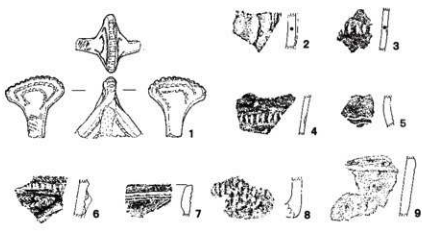
第23図 龜居遺跡16号住居跡出土遺物① (1/4)



## ピット



## 遺構外



第24図 亀居遺跡16号住居跡出土遺物②第61地点ピット・遺構外出土遺物(1/4)

## 第9章 鶴ヶ舞遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の最初の調査から2008年1月現在、11地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落し穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須壺器が出土している。

## II 鶴ヶ舞遺跡第10地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建替えに伴うもので、原因者より2006年6月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側に位置し、福岡江川の北側斜面地にあたる。原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2006年6月5日に行った。幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構らしき覆土を検出したため、確

認のため掘り上げたところ土地境の根切り溝であった。

さらに、溝跡の地山に礫を検出したためローム層を掘削した結果、旧石器時代の礫群1基を検出した。確認面まで30～70cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

礫群 トレンチ北端の壁際で検出した。

## III 鶴ヶ舞遺跡第11地点

## (1) 調査の概要

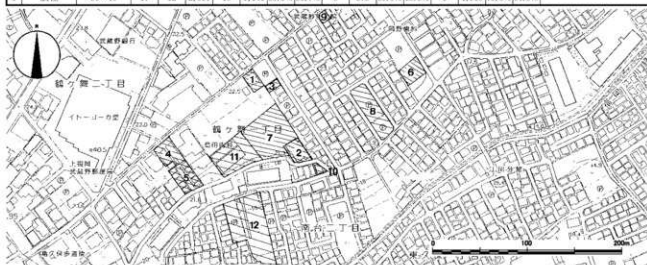
調査は事業所解体工事に伴うもので、原因者より2006年6月7日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央西側、福岡江川へ向かう北側斜面地になる。隣接する第7地点で旧石器時代の礫群と石器群を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2006年9月21日から同年10月5日まで行なった。幅約2mのトレンチを9本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。確認面まで20～30cmを測る。敷地内は事業所の建設時における地山の削平と、基礎撤去時の攪乱を受けていた。遺構・遺物は検出しなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

第19表 鶴ヶ舞遺跡第10地点礫群一覧表

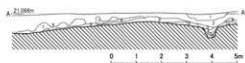
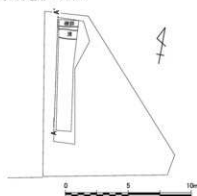
(単位:cm・g)

No	平面形態	確認範囲	厚さ	礫数	重量	赤化			保・タール			完形礫(%)			備考
						個数	重量	個数比/重量比	個数	重量	個数比/重量比	個数	重量	個数比/重量比	
1	散在	90×40	17	12	2,014	10	1,141	83.3%/56.7%	6	378	30.0%/18.8%	9	1,910	75.0%/94.8%	



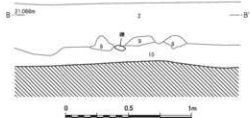
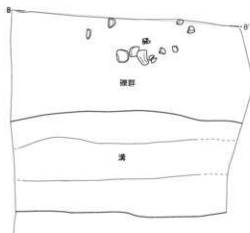
第25図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## 鶴ヶ舞遺跡10地点

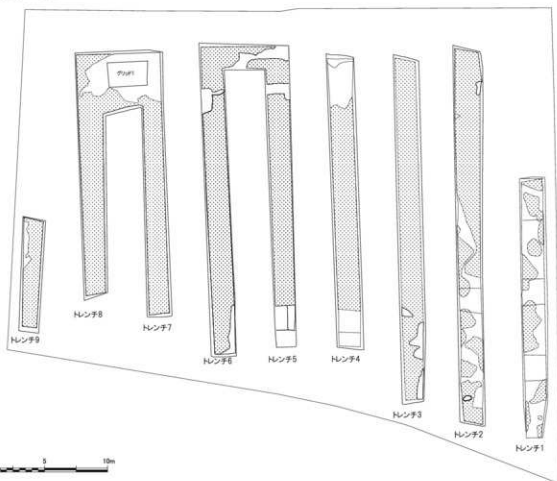


トレンチ

1. 黄土 黒色土 練り有、砂利含む、埋土
2. 黒色土 凝り練り、砂利、ローム塊多量含む、埋土
3. 暗褐色土 練り強、粘土細い
4. 褐色土 練り有、ローム粒主体、暗褐色土含む
5. 黒褐色土 練り有、砂子細い、ローム粒少量含む
6. 褐色土 練り強、ぼろぼろのローム主体
7. 暗褐色土 練り有、クワボク
8. 褐色土 練り有、クワボクからローム層への漸移層
9. 黄褐色土層 練り有、ソファローム層
10. 黄褐色土層 練り有、ハードローム層 立川ローム製成層



## 鶴ヶ舞遺跡11地点



第26図 鶴ヶ舞遺跡第10・11地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150) 第10地点礫群 (1/30)

## 第10章 松山遺跡の調査

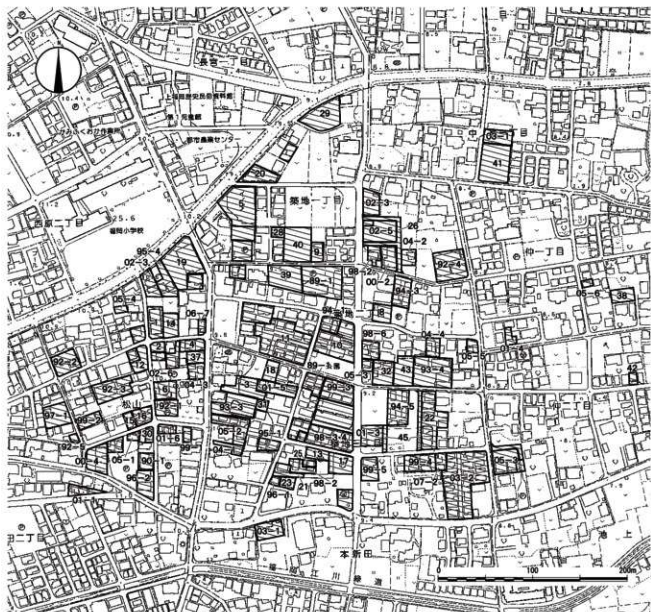
## I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上ある。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、

西方350m前後に比高差9mを持ってそびえる台地の南東斜面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## II 松山遺跡第25地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、1999年に調査済であるが、未報告のため概略を報告する。申請地は遺跡南側に立地し、西側と北側で奈良・平安時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は1993年3月3日から同12日まで行った。2×2mのグリッドを18カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、奈良・平安時代の住居跡3軒を検出した。20号住居跡からは緑釉陶器の皿1点を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## III 松山遺跡第37地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年4月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地し、北西側の隣接地で奈良時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月12日から同14日まで行った。2×2mのグリッドを15カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なったが遺構・遺物の検出はなかった。確認面まで45～55cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## IV 松山遺跡第38地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年5月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端に立地しているため、申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年5月29日に行った。2×2mのグリッドを21カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なったが遺構・遺物の検出はなかった。確認面まで

55～75cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## V 松山遺跡第39地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年12月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年1月10日から20日まで行った。2m幅のトレンチを7カ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヶ所検出したが、確認したところ時期不明のピットと自然の窪みであった。確認面まで40～50cmを測る。

また道路建設予定地には2×2mのグリッドを6カ所設定し、人力でローム層を掘り下げ旧石器時代の確認調査を行なったが、遺構・遺物の検出はなかった。なお、宅地部分については旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

【ピット】遺構に伴う出土遺物はない。

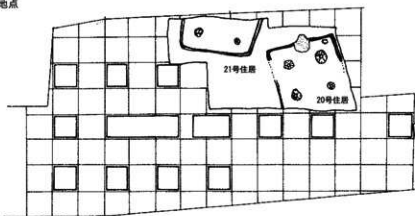
第20表 松山遺跡第39地点ピット一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	楕円形	50×40	25×18	25	
2	楕円形	35×22	18×5	14	
3	円形	33×32	23×23	22	
4	円形	35×29	15×8	37	
5	円形	25×20	11×11	54	

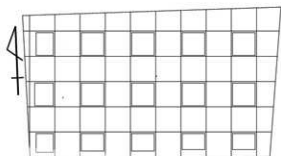
【出土遺物】表土から縄文土器を検出した。

1～6は遺構外出土。1～4は胎土に植物繊維を含み、1は明瞭に、2は不明瞭ながら表裏に条痕文もち3と4は胎土・焼成から同一個体とみられ、3では羽状縄文で円形貼付を伴う。5は地文縄文であるが摩滅著しい。6は条線をもつ。1と2は早期後半。3と4は前期前半。5と6は中期後半。

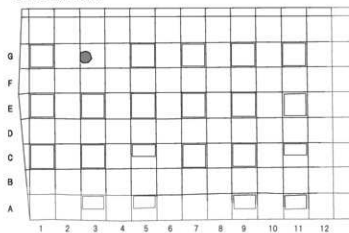
松山遺跡第25地点



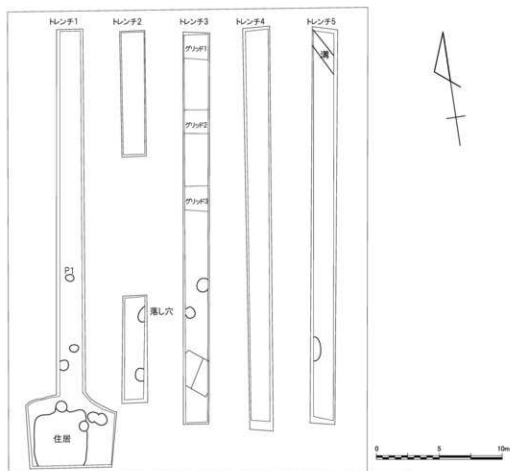
松山遺跡第37地点



松山遺跡第38地点



松山遺跡第40地点



第28図 松山遺跡第25・37・38・40地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150)



## VI 松山遺跡第40地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央やや北側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月2日から8日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、暗褐色土プランを数ヶ所検出した。遺構の性格を確認するためさらに表土除去し精査したところ、竈を持つ住居跡のほか、土坑、ピット等であった。確認面まで30~40cmを測るが、開発による掘削が30cm以上に及ぶ。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

また道路建設予定地には2×2mのグリッドを3ヶ所設定し、人力でローム層を掘り下げ旧石器時代の確認調査を行なったが、遺構・遺物の検出はなかった。なお、宅地部分については旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2007年2月21日から同年3月9日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、奈良時代の住居跡1軒、土坑、竈穴状遺構、時期不明の落し穴1基、溝1条を調査した。

(第2部第1章松山遺跡第40地点の調査参照)

## VII 松山遺跡第41地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外であったが、1,000㎡を超える開発のため内規にしたがい、申請者と協議の結果、遺跡の範囲を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月7日から9日まで行なった。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、暗褐色土プランを数ヶ所検出した。遺構の性格を確認するため

さらに表土除去し確認調査したところ、中世遺物のほか、溝、土坑であった。確認面まで50cmを測るが、道路敷設による掘削が50cm以上に及ぶ。直ちに遺跡範囲を拡大するための変更増補を行い、あわせて申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

なお、宅地部分については旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2007年2月21日から同年3月5日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、中世末から近世初頭の溝3条、土坑7基を調査した。

(第2部第2章松山遺跡第41地点の調査参照)

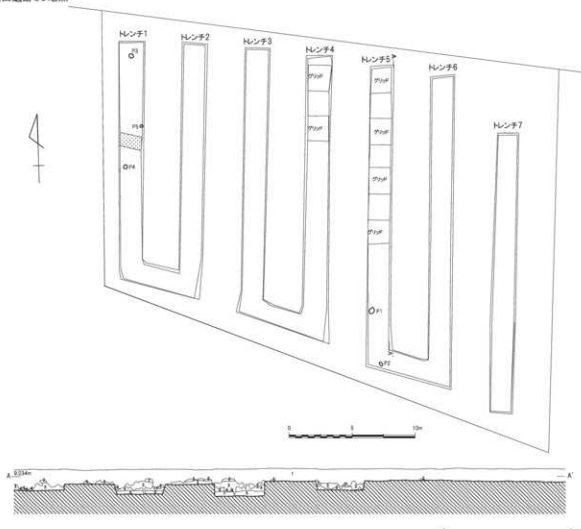
## VIII 松山遺跡第42地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年12月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端に立地しているため、申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月13日に行った。2×1mのグリッドを6ヶ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なったが遺構・遺物の検出はなかった。確認面まで60~85cmを測る。写真撮影・測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

松山道跡39地点



トレンチ5東壁

1. 黒褐色土 裏土 粘り有、粘性有、ローム塊、暗褐色土塊を、やや多く含む炭化物・焼土粒を少量含む
2. 暗褐色土 地山 粘り有、粘性有、層移層、ローム粒・黒色土粒(1mm以下)極少量、所々にローム塊(20mm以下)が混入
3. 黄褐色土 地山 粘り強、粘性有、ソコローム層、色調暗め、粘り強め、黒色粒(1mm以下)極少量
4. 黄褐色土 地山 粘り強、粘性有、ハーローム層、立川ロームV層相当、褐色粒・黒色粒(1~2mm大)少量
5. 暗褐色土 地山 粘り強、粘性有、ハーローム層、立川ロームV層相当、褐色粒・黒色粒(1mm大)上層より少量、シベ状の黒色土(5mm大)やや多量、微細な白色粒少量



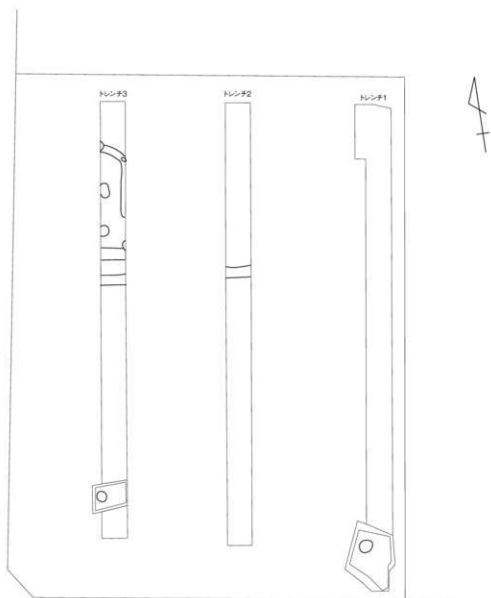
ピット

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・ローム塊(2mm以下)少量、ピット5では、炭化物(1mm以下)極少量、ローム粒(粒径3mm以下)大粒め
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊を多く含む、底状を呈する、ソコローム塊(20mm以下)少量
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊(5~15mm)やや多量
4. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊(5~20mm)、ローム粒(2mm以下)少量、炭化物(2mm大)極少量

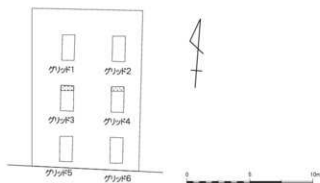


第29図 松山道跡第39地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150) ピット (1/60) 出土遺物 (1/4)

## 松山遺跡41地点



## 松山遺跡42地点



第30図 松山遺跡第41・42地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150)

## 第11章 江川南遺跡の調査

### I 遺跡の概要

江川南遺跡は、入間川支流の新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。

遺跡の標高は20～21mで、現谷底との比高差は約1～2mを測る。福岡江川北側の右岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東大久保・大井線が延びる。主要道路が交叉し、東武東上線上福岡駅から約1kmという立地条件のため、昭和40年代には個人住宅や工場などの急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

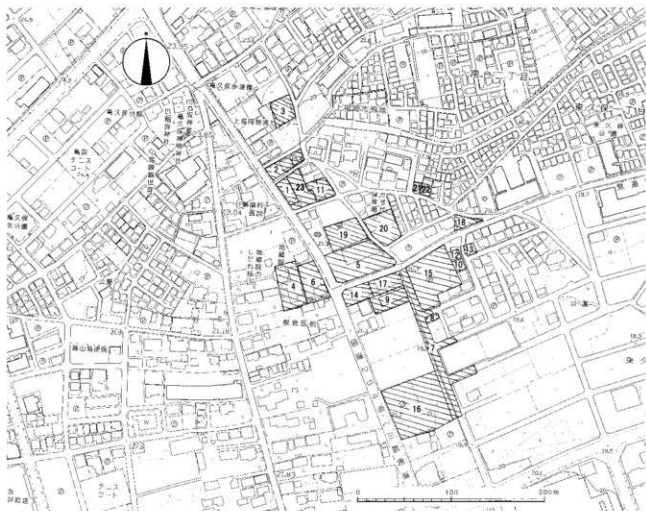
周辺の遺跡は、福岡江川の北西側対岸に縄文時代中期前葉の単一集落である亀居遺跡が位置し、同じく北

側に鶴ヶ舞遺跡が位置する。東側約150mには、平安時代の遺物を出土する江川東遺跡と、同じく東側約50mに東久保遺跡が位置する。

本遺跡は当初、地蔵院遺跡と江川南遺跡とに分かれていたが、平成5年に遺跡の変更増補を行ない、江川南遺跡に統一した。なお、1985年に調査した地蔵院遺跡第1地点は江川南遺跡第6地点に名称を変更した。また平成9年には亀久保堀跡遺跡と本遺跡を分けた。

本遺跡では旧石器時代の石器・礫群、縄文時代中期の住居跡、土坑等、古代～中世の堀跡、地蔵院に関わる近世の遺構群等、遺跡の時期は多岐にわたる。

2008年1月現在23地点で調査が行なわれ、縄文時代中期の住居跡が5軒検出されている。



第31図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## Ⅱ 江川南遺跡第21地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建替に伴うもので、原因者より2006年9月15日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東に位置し、福岡江川の南側斜面地にあたる。原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2006年11月11日に行った。幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが遺構・遺物の検出はなかった。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面まで50~90cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

## Ⅲ 江川南遺跡第22地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年9月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東に位置し、福岡江川の南側斜面地にあたる。原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年10月11日から同年11月6日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った結果、旧石器時代の礫群と石器を検出した。確認面まで80~100cmを測るが、調査区の北側は急傾斜斜面を盛土しており、1m以上の深さになるため未調査である。申請者と協議の結果、一旦は30cmの保護層を設けて盛土保存することになったが、住宅基礎をロームの地山層までバイルを打ち込む建設に変更となったため、原因者負担による本調査を実施することになった。再度遺構の範囲を確認するための調査を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2006年11月7日から同年11月9日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、旧石器時代の礫群5基を調査した。

(第Ⅱ部第3章江川南遺跡第22地点の調査参照)

## Ⅳ 江川南遺跡第23地点

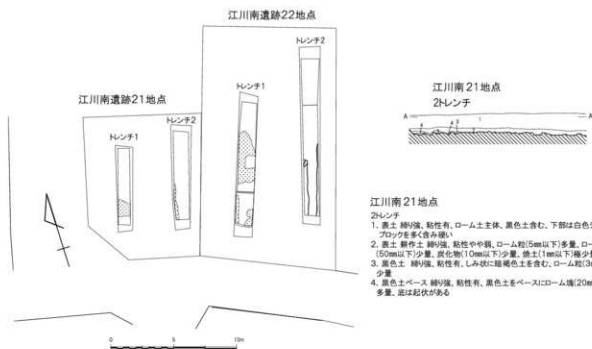
### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東に位置し、福岡江川の南側斜面地にあたる。申請地の一部は1977年大井町史編さん事業の一環として発掘調査され、縄文時代中期の住居跡を1軒(1号住居跡)調査している。また、隣接地からは旧石器時代の礫群、石器群を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年1月24日から同年2月1日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文土器を伴う住居跡らしき遺構覆土や、溝跡等を検出した。また、削平予定部分を深掘りして確認したところ、ローム層中より旧石器時代の礫群を検出した。確認面まで35~65cmを測る。申請者と協議の結果、保護層を30cm以上確保できる地域は保存することとし、車庫としてローム層を削平する部分と、保護層を確保できない部分については開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2007年2月19日から同年3月16日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、旧石器時代の礫群6基、縄文時代中期住居跡1軒、集石2基、土坑、ピット、溝跡4条を調査した。

(第Ⅱ部第4章江川南遺跡第23地点の調査参照)

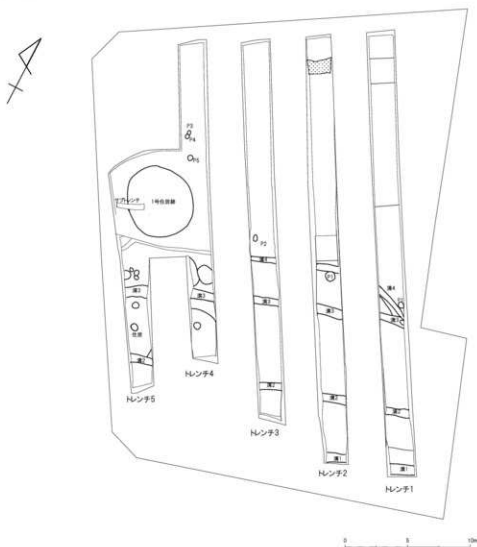


## 江川南21地点

## 2トレンチ

1. 黄土 粘り強、粘性有、ローム土主体、黒色土を含む、下部は白色シルトのブロックを多く含む層
2. 黄土 粘り強、粘性有、ローム土主体、黒色土を含む、下部は白色シルトのブロックを多く含む層
3. 黄土 粘り強、粘性有、しみ状に暗褐色土を含む、ローム粒(3mm以下)少量
4. 黒色土ベース 粘り強、粘性有、黒色土をベースにローム塊(20mm以下)少量、逆は起伏がある

## 江川南遺跡23地点



第32図 江川南遺跡第21・22・23地点遺構配置図(1/300)土層図(1/150)

## 第12章 江川東遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700～1,000m程下った右岸に位置している。標高15～19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に、亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は町内で最も早く市街化された区域内にあり、表面採取はほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2008年1月現在、14地点で試掘及び発掘調査が行われている。

### II 江川東遺跡第11地点

#### (1) 調査の概要

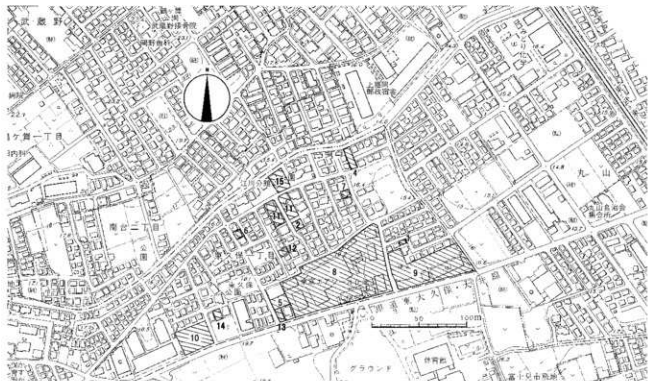
調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より

2006年11月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

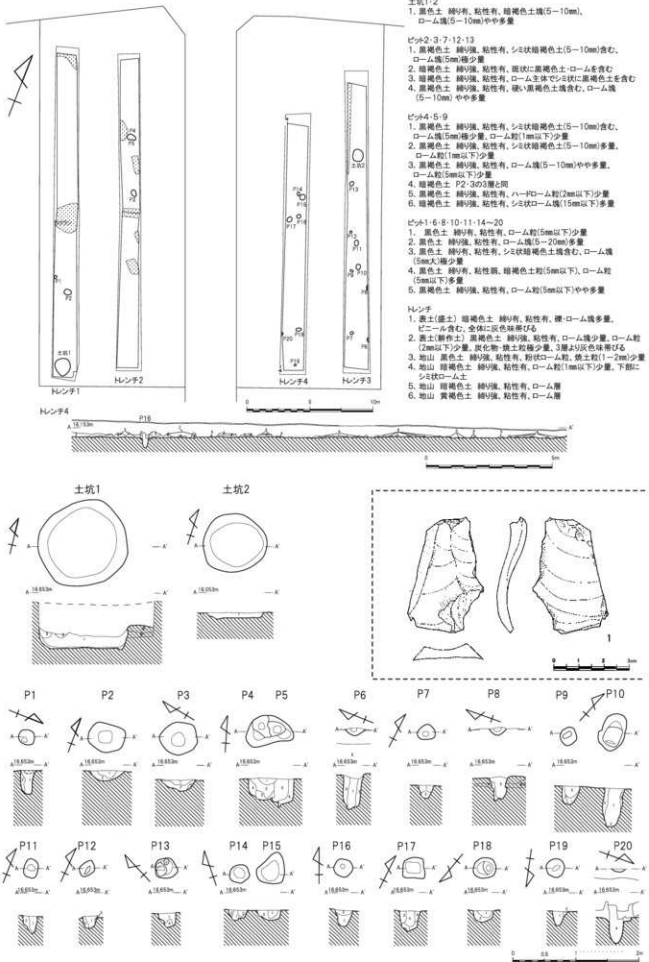
試掘調査は2006年11月9日から同年11月17日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構らしき覆土を検出したので遺構の時期・性格を確認するため調査したところ、近世の土坑と時期不明のピットであった。旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面まで40～50cmを測る。申請者と協議の結果、保護層を30cm以上確保できるため盛土保存することとし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

#### (2) 遺構

【土坑・ピット】土坑は円形の浅い土坑で、植栽痕と思われる。出土遺物はない。



第33図 江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000)



第34図 江川東遺跡第11地点遺構配置図(1/300) 土坑・ピット(1/60) 出土石器(2/3)



第21表 江川東遺跡第11地点土坑・ピット一覧表 (単位:cm)

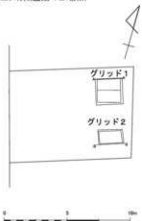
No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	円形	140×135	110×108	20	中世以降
土坑2	円形	100×92	84×68	8	中世以降
P1	円形	25×25	10×8	40	中世以降
P2	楕円形	58×45	22×20	16	縄文
P3	楕円形	60×52	22×20	14	縄文
P4	楕円形	55×30	12×12	42	縄文、P5より新
P5	円形	45×35	14×14	62	縄文、P4より旧
P6	半段のみ	32×	10×	35	中世以降
P7	円形	28×24	10×8	23	縄文
P8	半段のみ	26×	12×	17	中世以降
P9	隅丸方形	26×25	22×7	32	縄文
P10	楕円形	60×42	15×5	67	中世以降
P11	隅丸長方形	30×24	10×10	27	中世以降
P12	隅丸長方形	35×22	15×5	21	縄文
P13	隅丸方形	35×34	12×5	39	縄文
P14	円形	32×30	22×18	22	中世以降
P15	不整形	55×44	35×30	20	中世以降
P16	円形	32×32	6×6	35	中世以降
P17	方形	35×35	25×20	31	中世以降
P18	円形	35×32	10×8	21	中世以降
P19	円形	28×28	14×6	29	中世以降
P20	半段のみ	20×	×	41	中世以降

### Ⅲ 江川東遺跡第12地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建替え建設に伴うもので、原因者より2006年11月2日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中

江川東遺跡12地点



グリッド1-2

- 黒褐色土ベース 粘り強、粘性有、グリッド1では、シルト質黄褐色土主体、グリッド2では、土黄褐色土塊(10cm以下)多量、砂多量、盛土下の埋戻しはビニール・ガラス・灰を多量に含む 盛土
- 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム層(2m以下)下に少量、ローム存在する塊少量存在する 盛土
- 黒色土 粘り強、粘性有、粉状のローム少量、粉状の赤色粒雑わず

央に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年11月10日から同年11月16日まで行なった。2×2mと2×1mのグリッドを設定し、人力により表土除去と表面精査を行なったが、遺構・遺物の検出はなかった。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。認めまでは80~90cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

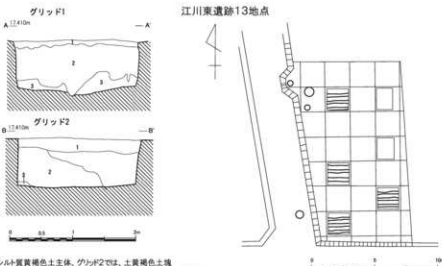
### Ⅳ 江川東遺跡第13地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建替え建設に伴うもので、原因者より2006年4月6日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央南側に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年8月11日に行なった。2×2mのグリッドを6ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行なったが、遺構・遺物の検出はなかった。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。認めまでは40cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

江川東遺跡13地点



第35図 江川東遺跡第12・13地点調査区域図 (1/300)

## 第13章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は約3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、町立東久保小学校が建ち、現在は区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は1976年以来2008年1月現在まで、64地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

旧石器時代雑群、縄文時代の落し穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や欄干が確認されている。

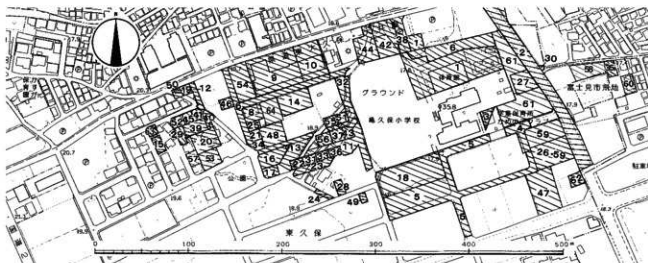
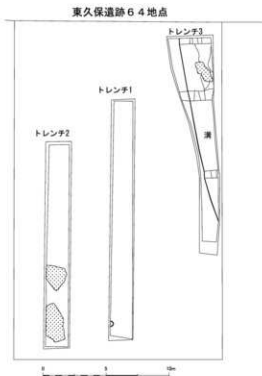
### II 東久保遺跡第64地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年7月27日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年10月12日から同年10月20日まで行なった。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行ったところ、溝跡と思われるプランを検出した。確認面まで60～70cmを測るが、開発による掘削が30cm以上に及ぶ。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2006年10月24日から同年10月26日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、溝3条、欄干を調査した。(第II部第5章東久保遺跡第64地点の調査参照)



第36図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000) 東久保遺跡第64地点調査区域図 (1/300)

## 第14章 東久保西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保西遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の低位台地に位置する。

遺跡の南側から東側にかけて埋没河川が流れ、現在では用水路になっている。以前は埋没河川を取り巻くように段差などがみられたが、こうした地形や環境も、区画整理事業と大規模開発により無くなりつつある。以前の標高は18.0～21.0mだったが、区画整理後は19.5～20.0mである。

周辺の遺跡は北西に江川南遺跡、北側に亀久保堀跡遺跡・東久保遺跡、南側に東中学校西遺跡が隣接する。

本遺跡は遺物の散布地であったが、1993年に東久保西遺跡として新規登録し、さらに1997年東久保土地区画整理事業に伴い区画道路部分を調査した際、遺構の検出範囲が広がったため、遺跡の変更増補を行なった。

1994年の初調査以来、2008年1月現在18地点で調査を行ない、埋没河川であった用水路周辺から旧石器時代の礫群、縄文時代の落し穴、屋外炉、中・近世の溝などを検出している。

### II 東久保西遺跡第17地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年10月12日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北西部に位置す

るため、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

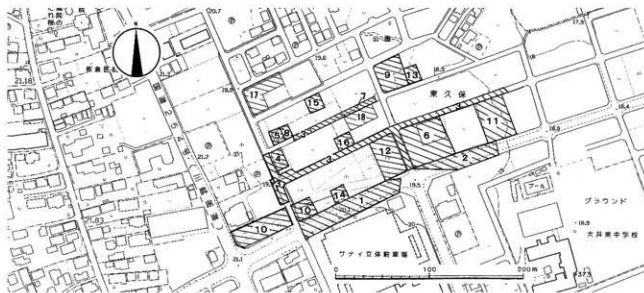
調査は2006年10月26日から同年10月31日まで行った。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構らしき覆土を検出したので性格を確認するため調査したところイモビツであった。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面までは50～90cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

### III 東久保西遺跡第18地点

#### (1) 調査の概要

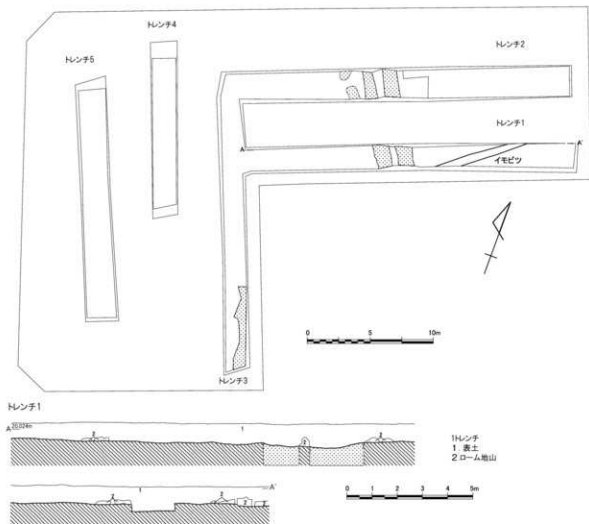
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月4日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置するため、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2006年1月16日から同年1月19日まで行った。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構らしき覆土を検出したので性格を確認するため調査したところ時期不明の溝と自然の窪みであった。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面までは60～70cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

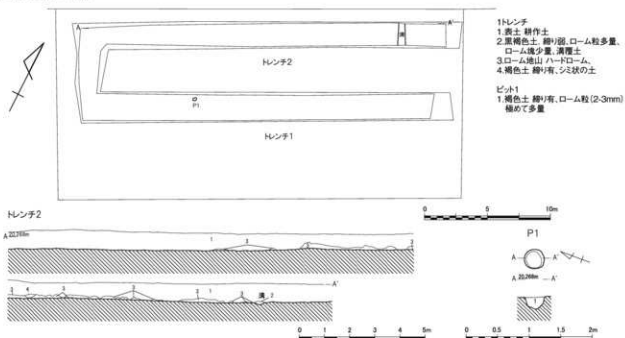


第37図 東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

東久保西遺跡17地点



東久保西遺跡18地点



第38図 東久保西遺跡第17・18地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150) ピット (1/60)

## 第15章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は20.0~21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代では早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋壘、落し穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓塚・溝・櫓列などが確認されている。本遺跡は区画整理事業と大規模開発による開発が進み遺跡面積約4haのうち約80%が調査されている。本遺跡の調査は1995年以来2008年1月現在、30ヶ所で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

### II 東中学校西遺跡第28地点

#### (1) 調査の概要

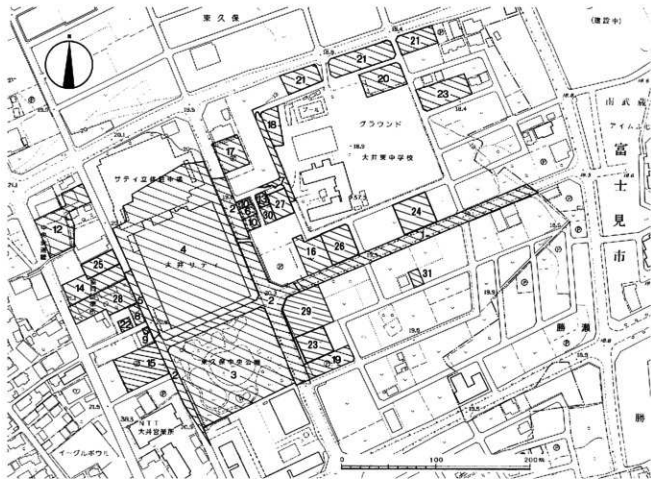
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年3月23日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月24日から同年5月10日まで行った。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したが、申請地の大半が攪乱を受けており、遺構・遺物の検出はなかった。確認面までは60~120cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なうたうえ埋め戻し、調査を終了した。

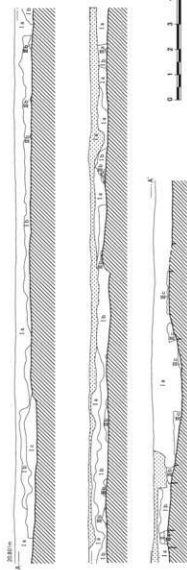
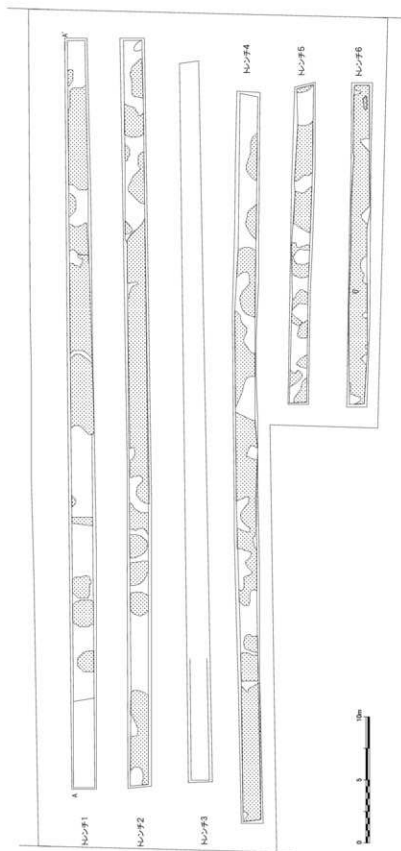
### III 東中学校西遺跡第29地点

#### (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2006年4月17日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委



第39図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



N-1 1. 黄褐色-暗褐色土、砂状、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 2. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 3. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 4. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 5. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 6. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 7. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 8. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 9. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 10. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 11. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 12. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 13. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土  
 14. 黄褐色土、粘粒質、粘粒質、ローム層、砂層、灰化物多量の土

第40図 東中学校西道路第28地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150)

員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は西側半分を2006年5月15日から同年5月19日、東側半分を同年7月28日から同年8月1日に実施した。幅約2mのトレンチを9本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、一部で遺構らしき覆土を検出したため、トレンチを拡大して確認したところ、縄文時代の土坑であった。旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面までは60~100cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なった

うえ埋め戻し、調査を終了した。

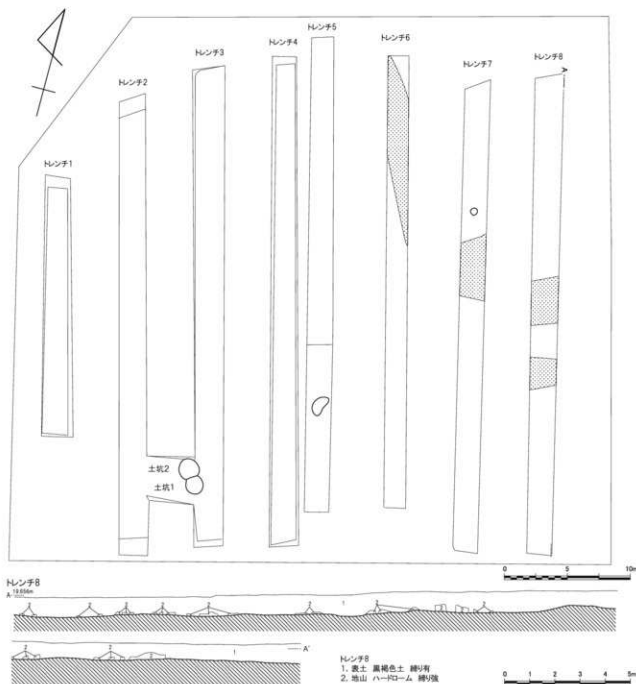
## (2) 遺構と遺物

【土坑】時期不明の土坑2基を検出した。遺構に伴う出土遺物はない。

第22表 東中学校西遺跡第29地点土坑一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	円形	148×140	123×120	78	土2より新
土坑2	円形	160×150	135×130	34	土1より旧

【表土出土遺物】1は土師質の坐像人形で中空。2は寛永通宝。いわゆる古寛永(1636~1659)で径24.0×厚1.2×孔径6.2mm、重さ2.74g。



第41図 東中学校西遺跡第29地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150)

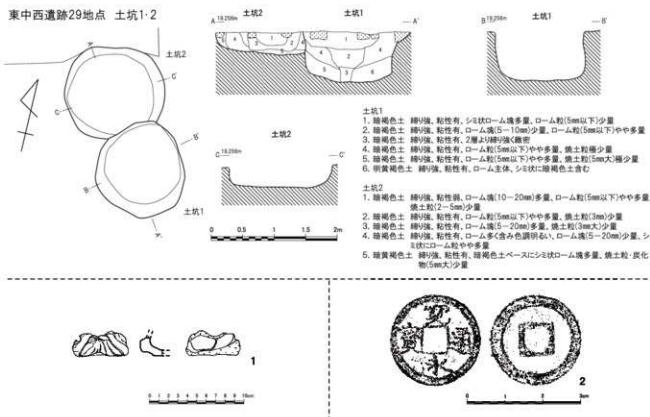
## IV 東中学校西遺跡第30地点

## (1) 調査の概要

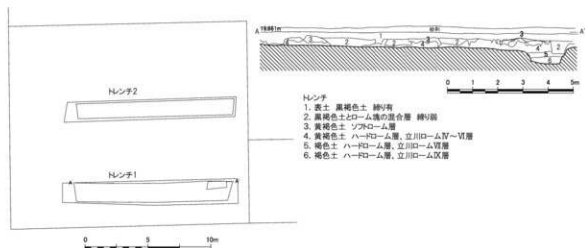
調査は保育所建設に伴うもので、原因者より2006年4月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年7月3日に行った。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したが、遺構・遺物の検出はなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。確認面までは40~50cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。

## 東中西遺跡29地点 土坑1・2



## 東中西遺跡30地点



第42図 東中学校西遺跡第29地点土坑(1/60)出土遺物(1/4・1/1)30地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)



## 第16章 駒林遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

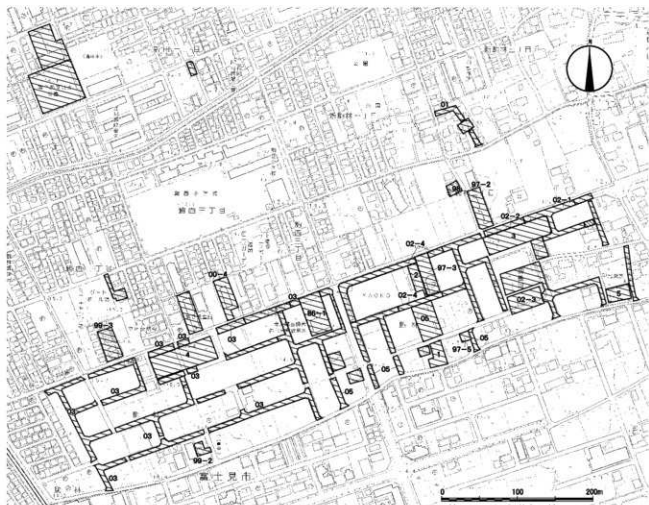
駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの広大な範囲であったが、2002年から2004年にかけて行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大半の地域で遺構を確認できなかったため、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。

しかし、今回第3地点で検出した溝と過去の試掘調

査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に葦石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。

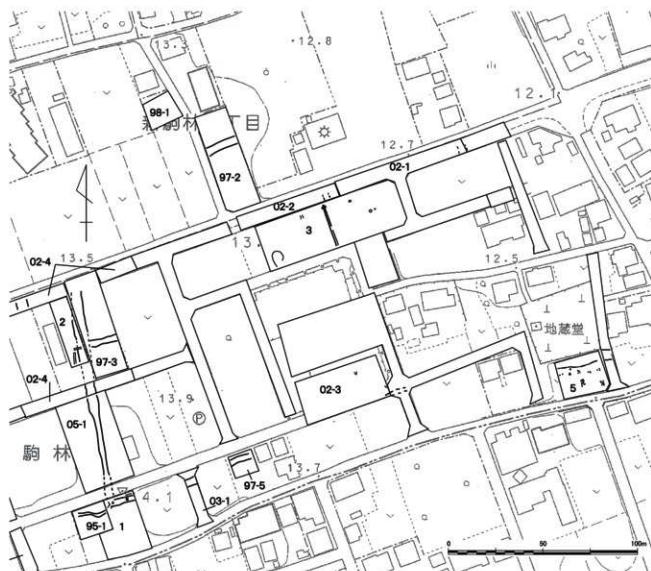
2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡を検出する。周辺の遺跡の様相から遺跡の時期は中世から近世と思われる。



第43図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第23表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試験調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	駒林字南原353, 354	1986. 8. 13 - 25	1536	範囲確認調査	平安土器散佈地	歴史文化財の調査(Ⅹ)
1992年度試掘(1)	大字駒林字南原341	(1992. 9. 16 - 18)	987. 6	共同住宅建設	なし	歴史文化財の調査(15)
1995年度試掘(1)	駒林字新田271-2	(1995. 11. 8 - 24)	231	個人住宅建設	溝1	歴史文化財の調査(18)
1996年度試掘(1)	駒林本町193-3, 4	(1996. 6. 10 - 13)	231	個人住宅建設	なし	歴史文化財の調査(19)
1997年度試掘(1)	駒林字新田299-2	(1997. 5. 8 - 22)	132	個人住宅建設	溝1(時期不明)	歴史文化財の調査(20)
1997年度試掘(2)	駒林字新田223	(1997. 5. 9 - 15)	991. 53	宅地造成	溝1(時期不明)	歴史文化財の調査(20)
1997年度試掘(3)	駒林字新田291-1, 2	(1997. 10. 6 - 17)	991	倉庫所建設	溝1(時期不明)	歴史文化財の調査(21)
1998年度試掘(1)	駒林字新田312	(1998. 8. 10)	234	個人住宅建設	なし	歴史文化財の調査(21)
1999年度試掘(1)	駒林字南原424-2の一部, 20の1の一部, 23	(1999. 4. 9)	330. 38	個人住宅建設	なし	歴史文化財の調査(22)
1999年度試掘(2)	駒林字南原394-2	(1999. 5. 25)	125. 91	個人住宅建設	なし	歴史文化財の調査(22)
1999年度試掘(3)	駒林字南原429-1	(1999. 7. 1)	1322	礼拝堂(追善)建設	溝1(時期不明)	歴史文化財の調査(22)
2000年度試掘(1)	駒林字南原344-2	(2000. 1. 18 - 20)	785. 79	共同住宅建設	溝1(時期不明)	歴史文化財の調査(22)
2002年度試掘(1)	駒林字新田238, 240 - 242-1の一部	(2002. 6. 3 - 21)	650	区画整理	溝8, 土坑7, 地下式土坑1	歴史文化財の調査(25)
2002年度試掘(2)	駒林字新田243 - 245	(2002. 8. 9 - 30)	275	区画整理	なし	歴史文化財の調査(25)
2002年度試掘(3)	駒林字新田262 - 1, 263, 264の一部	(2002. 8. 30 - 9. 19)	1120	区画整理	なし	歴史文化財の調査(25)
2002年度試掘(4)	駒林字新田280 - 282 - 2, 290, 292 - 1 - 298	(2002. 11. 11 - 27)	1150	区画整理	なし	歴史文化財の調査(25)
2003年度試掘(1)	駒林字新田263, 273, 275(字新田)試験調査	(2003. 5. 16 - 21)	558	区画整理	溝1	歴史文化財の調査(26)
2003年度試掘(2)	駒林字南原364(11号の一部)字南原)試験調査	(2003. 4. 25 - 12. 22)	7278. 3	区画整理	なし	歴史文化財の調査(26)
2003年度試掘(3)	駒林本町193(11号の一部)字南原)試験調査	(2004. 1. 21)	282	区画整理	なし	15年度教育要覧
2004年度試掘(1)	駒林字新田281	(2006. 1. 7 - 21)	1487	範囲確認調査	溝1	歴史文化財の調査(27)
1	駒林土地区画整理事業地内20街区4, 8, 9	2006. 7. 13 - 28	646	共同住宅建設	堀跡, 茶臼跡検出	市内遺跡第3
2	駒林土地区画整理事業地内17街区7, 8の1の一部	2006. 11. 21 - 29	421	専用住宅建設	堀跡検出	市内遺跡第3
3	駒林土地区画整理事業地内21街区3, 4の1の一部	2006. 11. 30 - 12. 18	1916	店舗建設	近世溝様建設	市内遺跡第3
2005年度試掘(緑道)	駒林本町7街区3, 4	2007. 6. 11 - 13	1866	共同住宅建設	なし	



第44図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

## II 胸林遺跡第1地点

### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年7月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に立地し、大溝の検出が予測されるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年7月13日から同年8月2日まで行った。2×2mのグリッドを17ヵ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、溝跡らしき黒褐色土プランを検出したため範囲を広げ溝跡のプランを確認したところ、溝が重複していた。新旧関係を確認するためさらに掘り下げたが、溝覆土中位に硬化面と焼土を検出したので確認したところ、道路状硬化面と茶毘跡であった。確認面まで20cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

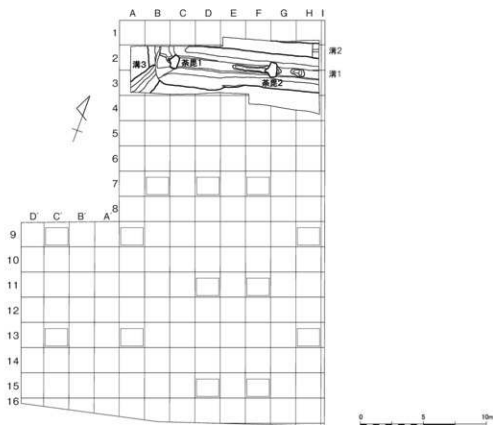
【溝1】調査区北側に東西方向の溝を14m検出した。B-2区で北方向へ直角に曲がり、2004年度確認調査で検出した溝5に連なると思われる。北側は溝2と重複し、溝2より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後

に構築している。断面形態は幅広い「V」字形の栗研堀で、上幅270～330cm、下幅60～70cm、確認面からの深さ160cm。底面の一部は20～30cmほど一段深く掘削される。

溝は下層がロームブロック混じりの土、中層から上層は黒褐色土と暗褐色土で埋まるが、溝の覆土中、底面から70cmの高さで茶毘跡を2基検出し（後述）、90cmと110cm、160cmの高さで路面と思われる硬化面を3面検出した。

最下層の第1硬化面は底面から90～100cmの高さで検出した。幅140cmの範囲で黒褐色土が硬化していたが、特に北寄りの50cm幅の硬化が著しい。第1硬化面の直下に茶毘跡2基と馬の歯を検出した。

第2硬化面は底面から110～120cmの高さで検出した。



第45図 胸林遺跡第1地点遺構配置図 (1/300)

東側は幅110~150cmの範囲で黒褐色土が硬化する。西側のB~2区では幅30cmの硬化面が50cm離れて2条平行し、北側の硬化面は北方向へ曲がる。

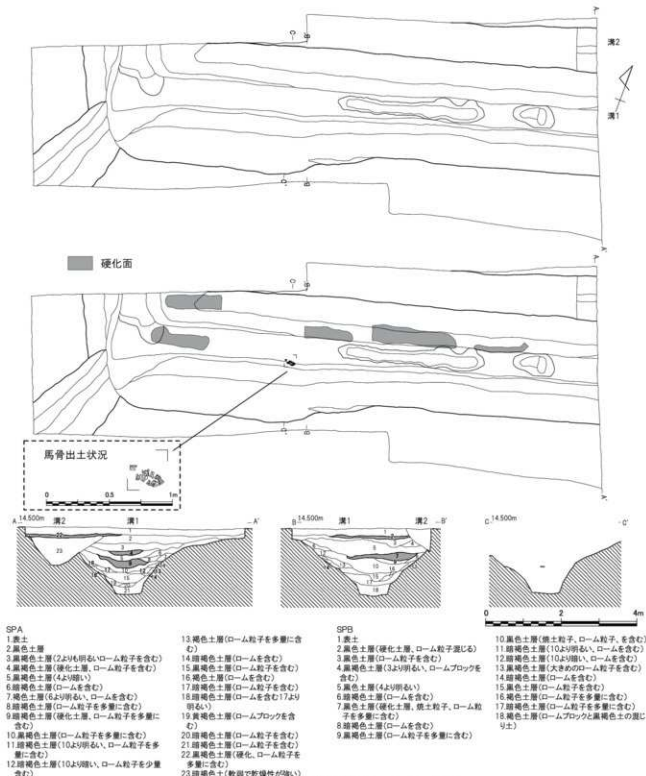
第3硬化面は底面から160~150cmの高さ、地表面からは20cmの深さで検出した。幅200cmの範囲で黒褐色土が硬化する。溝2により壊される。

遺構に伴う出土遺物はない。

【溝2】調査区北側で東西方向に10m検出した。南西

方向へ曲がり溝3へ連なると思われる。北側は溝1が完全に埋没した後構築されている。断面形態は浅い「V」字形、最上面はローム粒子を多量に含む黒褐色土で、硬化する。遺構に伴う出土遺物はない。

【溝3】調査区北側で南西方向に2.7m検出した。溝2及び1995年度確認調査で検出した溝2へ連なると思われる。溝1が完全に埋没した後構築されている。断面形態は浅い「V」字形、遺構に伴う出土遺物はない。



第46図 胸林遺跡第1地点溝跡1~3 (1/100)

【茶毘跡1】調査区北側B-2区、溝1の覆土中、底面から40~70cmの高さで検出した。平面形は長方形の長軸中央の西側に突出部が張り出すT字形である。規模は突出部を含めた上端115×88cm、土坑部幅55cm、下端47×37cm、深さ37cmで浅い鉢状に窪む。突出部は幅15cm、長さ20cm。突出部と土坑の四隅を残して側辺が赤く焼けている。土坑内部からは焼骨と炭化材が出土した。遺構に伴う出土遺物はない。

【茶毘跡2】調査区北側F、G-3区、溝1の覆土中、底面から25~60cmの高さで検出した。平面形は長方形の長軸中央の西側に突出部が張り出すT字形である。規模は突出部を含めた上端120×93cm、土坑部幅55cm、下端56×40cm、深さ35cmで浅い鉢状に窪む。突出部は

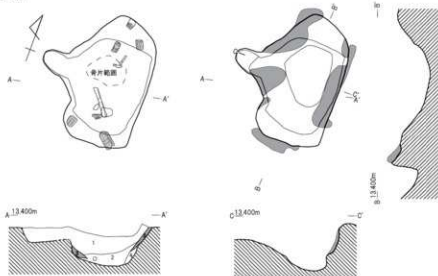
幅25cm、長さ25cm。突出部の南側(南西側)と奥左側(北東側)の側辺が赤く焼けている。土坑内部からは焼骨片と炭化した竹材が出土した。遺構に伴う出土遺物はない。

第24表 駒林遺跡第1地点遺構一覧表

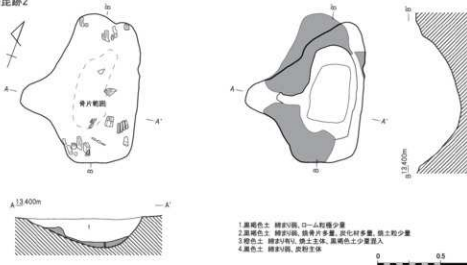
(単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1		270~330	60~70	130	覆土下層に茶毘跡道路状硬化面2面検出、溝2に埋される。
溝2		80~120	20~35	48	覆土上層に道路硬化面1面検出、溝2に埋され、溝1より新しい。
溝3		135~170	25~35	45	溝1より新しい。
茶毘跡1	T字形	115×88	47×37	37	溝1より新、焼骨片・炭化材出土
茶毘跡2	T字形	120×93	56×40	35	溝1より新、焼骨片・炭化竹出土

茶毘跡1



茶毘跡2



1. 黒褐色土 焼跡弱、ロ-A粒極少量
2. 黒褐色土 焼跡強、焼骨片多量、炭化材多量、焼土粒少量
3. 褐色土 焼跡弱、焼土主体、黒褐色土少量混入
4. 黒色土 焼跡強、炭粒主体

第47図 駒林遺跡第1地点茶毘跡1・2 (1/30)

## III 駒林遺跡第2地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年11月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、大溝の検出が予測されるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年11月21日から同年11月30日まで行った。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、溝跡らしき黒褐色土プランを検出したため範囲を広げ溝跡のプランを確認したところ、溝の他、土坑を検出した。遺構の深さや新旧関係を確認するため一部を掘り下げ調査した。確認面まで60cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

【溝1】調査区南側に南北方向の溝を23m検出した。北側は1997年度確認調査で検出した溝5と、南側は2004年度確認調査で検出した溝5に連なると思われる。中央部分で直行する溝2と重複し、溝2より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後に構築している。

断面形態は底幅の幅広い栗研堀で、上幅350cm以上、下幅175cm、確認面からの深さ172cm。

溝は下層(9~11層)がローム塊混りの土、上層は黒褐色土と暗褐色土で埋まる。溝の覆土中底面から90cmの高さで9層面から掘込まれたピットを2基検出した(土層断面で確認)。また、6層では覆土を再掘削したような土層堆積が認められるが、硬化面などは確認できなかった。遺構に伴う出土遺物はない。

【溝2】調査区中央で東西方向に3.85m検出した。1997年度確認調査で検出した溝4へ連なると思われる。溝1が完全に埋没した後構築されている。西側で垂直に立ち上がる。断面形態は「コ」字形で、上幅75cm、下幅60cm、確認面からの深さ64cm。一度掘り返される。遺構に伴う出土遺物はない。

【溝3】調査区中央で南北方向に6m検出した。溝2とはほぼ直角の位置にあり、1.3m離れる。

断面形態は鉢状で、上幅90cm、下幅50cm、確認面からの深さ24cm。底面に3~10cm大の礫が145cmの範囲に集中する。遺構に伴う出土遺物はない。

【土坑1】調査区中央、溝2に接して検出した。溝2より新しく、耕作痕もしくは根痕。

## 第25表 駒林遺跡第2地点遺構一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1		350~	175	172	覆土下層にピット、再掘削の痕跡有り。
溝2		75	60	64	溝1より新しい。
溝3		90	50	24	底面に礫石。
土坑1		140×	40×	15	埋乱。

## IV 駒林遺跡第3地点

## (1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2006年11月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外であったが、1,000m<sup>2</sup>を超える開発のため開発指導要綱の内規に従って申請者と協議した結果、遺跡の範囲を確認するために試掘調査を実施した。

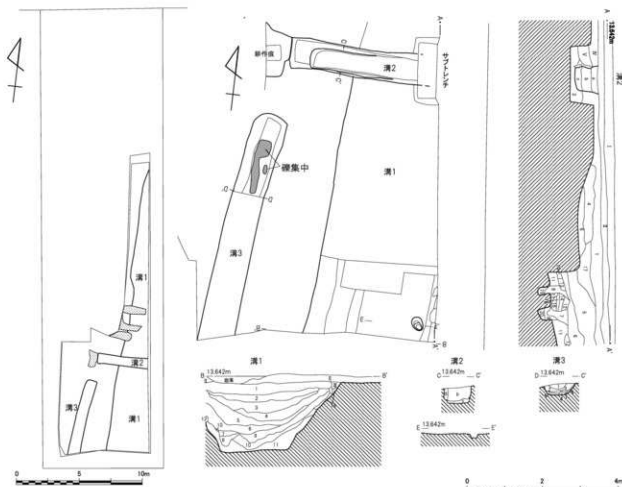
試掘調査は2006年11月30日から同年12月20日まで行った。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、遺構らしき黒褐色土プランを検出したため範囲を広げプランを確認したところ、溝、井戸、土坑を検出した。遺構の深さや新旧関係を確認するため一部を掘り下げ調査した。確認面まで40~80cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

【井戸1】調査区やや東寄りに検出した。平面円形、ほぼ垂直の壁である。上層から瓶の底部片出土。確認面から1m掘り下げた深さで掘削を中止したため、遺構の深さは不明である。

【溝1】調査区中央に南北方向の溝を23m検出した。北側は2002年度確認調査で検出した溝11に連なる。北側で土坑2と重複し、土坑より古い。

断面形態は「コ」字形で、上幅90~110cm、下幅45~50cm、確認面からの深さ65cm。北側の4.5mは一段深く掘られ、下幅20cm、深さ104cm。下層の土は粒状



- I 表土 白色砂壌 締り強、粘性弱  
 II 表土 新作土 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)均一にやや多量、鉄土・炭化物(5mm以下)極少量ビニール含む  
 III 耕作土 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム少量  
 IV 暗褐色土 締り弱、粘性有、ブロック状の暗褐色土の堆積、ローム塊(5~20mm)少量、ローム粒(5mm以下)やや多量  
 V 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、シズ状に黒色土を少量、シズ状に層積層土(粒径15mm大)少量  
 1 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量  
 2 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム粒(5mm以下)1層に比べやや多量、色調の明い暗褐色土をシズ状に含む、全体の色調は明るめ  
 3 黒褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土ブロック状(30mm以下)やや多量、ローム粒(3mm以下)少量  
 4 暗褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土ブロック状(40mm以下)少量、ローム粒(3mm以下)多量  
 5 暗褐色土 締り弱、粘性有、4層に比べ黒褐色土を多量含む、色調は暗い、ローム粒(5mm以下)やや多量  
 6 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、特にローム塊(10mm以下)中央下部に集中、硬質の黒褐色土粒(10mm以下)少量、シズ状暗褐色土(40mm程度)点在、6と9層に時局差あり  
 7 黒褐色土 締り弱、粘性有、シズ状に黒褐色土を含み全体の色調は、6層に比べ暗い、ローム塊(5~10mm)、ローム粒(3mm以下)やや多量  
 8 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(5mm以下)やや多量、縁部部分ローム粒(5mm大)やや多量、シズ状の暗褐色土ブロックも多量含む底状を呈する  
 9 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム分を多く含む色調は暗い、ローム塊(5~10mm)少量、ローム粒(3mm以下)多量  
 10 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム分を多く含む色調は暗い、ローム塊(5~10mm)少量、ローム粒(3mm以下)多量  
 11 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム土主体、ローム塊(最大150mm大)やや多量、ローム粒(5mm以下)多量、シズ状に暗褐色土を少量含む  
 12 暗褐色土 締り弱、粘性有、べーは11層に似る、ハ→ローム塊(5~10mm)やや多量、ローム粒(5mm以下)やや多量、硬質の黒褐色土粒(5mm大)少量が目立つ  
 13 暗褐色土 締り弱、粘性有、べーは11層に似る、黒褐色土が少なめでシズ状のローム土、ローム粒(3mm以下)やや多量、色調は暗い  
 14 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊主体(10~40mm)、シズ状の黒褐色土少量  
 15 暗褐色土 締り弱、粘性有、10層土に似る、シズ状に黒褐色土を含む、ローム塊(5mm以下)やや多量、硬質の黒褐色土粒(5mm以下)少量  
 16 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(5~10mm)多量、黒色土塊(5~15mm)少量  
 17 暗褐色土 締り弱、粘性有、1層に5層の中間的な色調、ローム粒(5mm以下)少量5層ほど少ない、ソフトローム塊(10~40mm)少量、明い暗褐色土塊(10~60mm)シズ状に含む  
 18 暗褐色土 締り弱、粘性有、シズ状にロームを多量含む、ローム塊(5~10mm)やや多量  
 19 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(5mm以下)少量、11層土になるが色調は、黒色味がある  
 20 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(20mm以下)多量、シズ状に黒色土を少量含む

#### 溝2 (土層C)

- 1 暗褐色土 締り弱、粘性有、調査区東壁に見られる層、別の層にみの可能性が有る、ローム粒(5mm以下)少量、硬いブロック状の土多量  
 2 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(5~10mm)ローム粒(5mm以下)やや多量  
 3 暗褐色土 締り弱、粘性有、1層に比べ色調暗い、ローム粒(5mm以下)少量、調査区東壁ではローム塊(5~10mm)少量  
 4 暗褐色土 締り弱、粘性有、締り強め、ローム粒(5mm以下)少量、色調は暗い

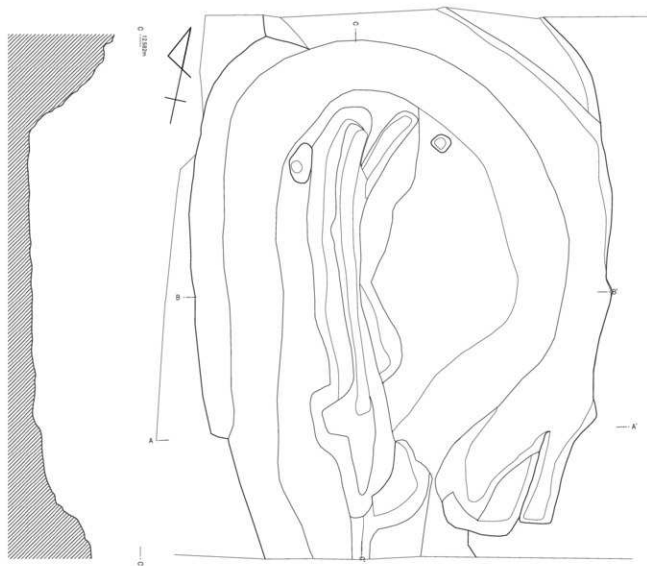
#### 溝3 (土層D)

- 1 暗褐色土 締り弱、ローム粒(1~5mm)やや多量  
 2 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム塊(50mm以下)暗褐色土塊(60mm以下)多量、II層にはみられない硬い黒褐色土塊(60mm以下)が、密に堆積し、底状を呈する、ローム粒(5mm以下)やや多量  
 3 黒褐色土 暗褐色土 締り強、ローム粒(1~3mm)少量  
 4 暗褐色土 締り弱、ローム粒(1~3mm)極多量、縁(3~10mm大)が、底面に集中する  
 5 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土の一部は硬いブロック状になっている、ローム塊(70mm大・20mm以下)少量、円礫(30~90mm大)を最下部に含む  
 6 褐色土 締り弱、ローム粒主体

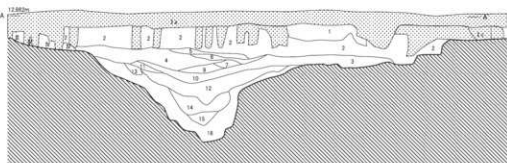
第48図 駒林遺跡第2地点遺構配置図(1/300) 溝1~3 (1/100)







1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2~5mm) 少量
2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2~5mm) 多量、ローム塊 (10cm大) 多量
3. 暗褐色土 締りやや有、ローム粒 (2~5mm) 極多量、ローム塊 (1~3cm大) 極多量
4. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 中や多量
5. 暗褐色土 締り弱、水成堆積、土が肥状とローム含む暗褐色土のサンド
6. 暗褐色土 締り弱、水成堆積、土が肥状
7. 暗褐色土 締り弱、水成堆積、粒状土の堆積
8. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 多量、一部暗褐色土塊混入 (塊状)
9. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 少量、中や水成堆積
10. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 多量
11. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1cm) 極多量、中や水成堆積
12. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2~5mm) 多量、ローム塊 (10cm大) 極少量
13. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 極多量
14. 茶褐色土 締り有、ローム粒 (1~3mm) 少量、土が粒状で水成堆積、種畝、染付破片出土
15. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~3mm) 少量、土が粒状で水成堆積
16. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2~5mm) 極多量、ローム塊 (2~5cm大) 極多量



第50図 駒林遺跡第3地点土坑1 (1/60)

を呈し水成堆積と思われる。遺構に伴う出土遺物はない。

【溝2】調査区やや西寄り北側に南北方向の溝を検出した。断面形態は「コ」字形で、上幅85cm、下幅60cm、確認面からの深さ54cm。下層の土は粒状を呈し水成堆積と思われる。遺構に伴う出土遺物はない。

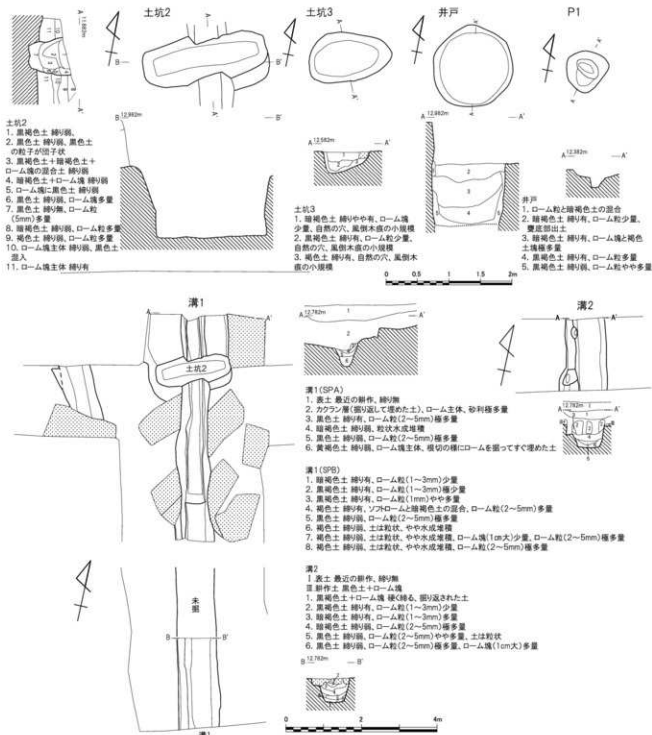
【土坑1】調査区南西隅に検出した。南北8.6m、東西6.6mの巨大な土坑で、底は幅70cmの溝状になる。覆土上層に泥状の堆積が認められ、埋没後も窪みとな

っていたようである。窪み埋没後、溝が掘削される。下層から染付け皿と擂鉢片が出土した。遺構の時期は近世。

【土坑2】調査区中央北側に検出。溝1より新しい。

【土坑3】調査区やや東寄り北側に検出した。

【出土遺物】3は花崗岩製石皿で凹面に使用痕が残る。重さ435.5g。9は刷上半に半截竹管による集合沈線・下半に素然の縄文で、胎土に植物繊維を含む。縄文前期の黒浜式。その他は表27に記載した。



第51図 駒林遺跡第3地点地点土坑2・3・井戸・ピット (1/60) 溝1・2 (1/100)

第26表 駒林遺跡第3地点遺構一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
井戸1	円形	128×125			中世～近世。未掘。
溝1		90～110	45～50	65	覆土下層水成堆積。両側削の痕跡有り。土坑1より古。
溝2		85	60	54	覆土下層水成堆積。
土坑1	楕円形	860×660	450×20	180	染付け皿、播鉢検出。近世
土坑2	長方形	200×75	165×30	110	溝1より新。
土坑3	楕円形	130×78	100×54	30	

第27表 駒林遺跡第3地点出土土遺物観察表

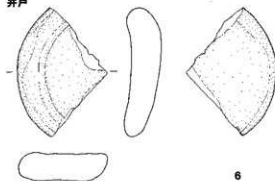
(単位cm)

遺構	No.	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定産地	推定年代	残存・備考
土坑1	1	磁器・皿				ロクロ成形/染付。	肥前	18世紀	口縁破片
土坑1	2	陶器・播鉢		(12.7)		縦横ロクロ成形、播目7本	丹波	17世紀後半	口縁破片
土坑1	3	陶器・播鉢		(12.7)		縦横ロクロ成形、播目6本	丹波	17世紀	底部1/4以下残存
土坑1	4	瓦・丸軒瓦						近世	
土坑1	5	石製品・砥石	7.9	3.3	2.5	表裏側4面砥面。盤筋状に端部が磨り減る。	凝灰岩		
井戸1	6	石製品・石皿			2.7		花崗岩	縄文	
表土	7	埴輪陶器・甕			(10.0)	縦横み成形	常滑	中世	底部破片
表土	8	土器・カワラケ	(6.6)	(4.4)	1.2	ロクロ成形/胎土粉質	在地		1/4以下残存

## 土坑1



## 井戸



## 遺構外



第52図 駒林遺跡第3地点土坑1・井戸・遺構外出土遺物(1/4)

## 第17章 西ノ原遺跡の調査

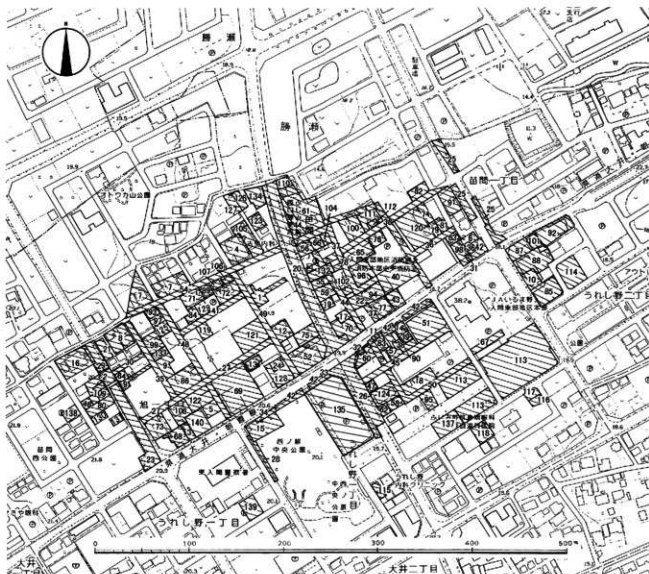
## I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧き源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、淨禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2008年1月現在で139地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第53図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

## Ⅱ 西ノ原遺跡第136地点

### (1) 調査の概要

調査は学生寮建設に伴うもので、原因者より2006年6月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年6月23日から同年6月24日まで行った。2m幅のトレンチを4ヵ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、斜面地特有の黒褐色土の地山を確認したが、縄文時代土器片を一片検出した他、遺構は検出しなかった。確認面まで180～235cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 出土遺物

1は楊状工具による条線をもつ胴部片。中期後半。表土出土。

## Ⅲ 西ノ原遺跡第137地点

### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年6月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年8月3日から同年8月7日まで行った。2m幅のトレンチを3ヵ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヶ所検出したが、確認したところ自然の窪みであった。その他に溝跡を2条検出したが確認したところ、区画整理で廃道となった道の側溝であった。確認面まで60～90cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 出土遺物

1はRL縄文を地文とし広く磨消垂下文をもつ。2は無文の胴部片。縄文中期後半～末葉のもの。いずれも表土出土。

## Ⅳ 西ノ原遺跡第138地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年9月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外の西側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

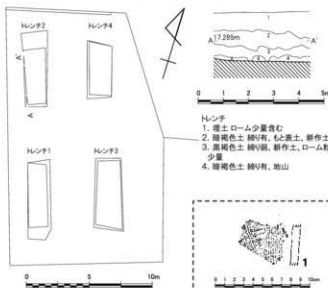
試掘調査は2006年11月21日から同年11月22日まで行った。2m幅のトレンチを2ヵ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが、遺構・遺物は検出しなかった。確認面まで30～40cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## Ⅴ 西ノ原遺跡第139地点

### (1) 調査の概要

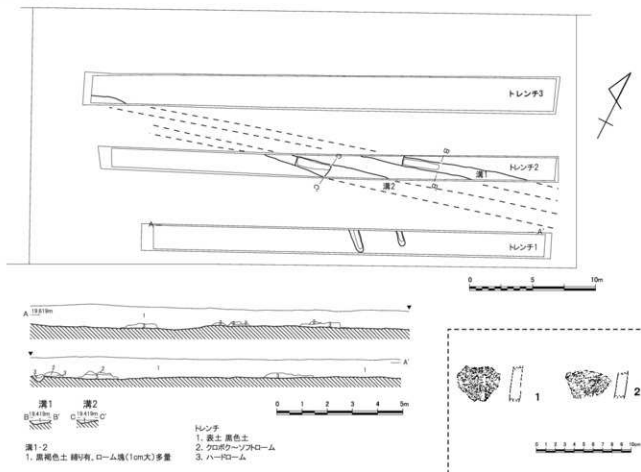
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年12月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月1日に行った。1m幅のトレンチを1ヵ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが、遺構・遺物は検出しなかった。確認面まで90～100cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

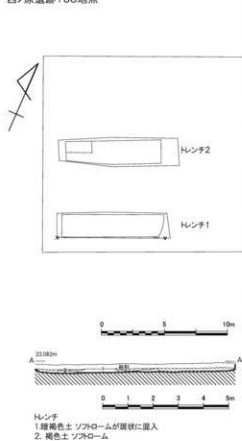


第54図 西ノ原遺跡第136地点調査区域 (1/300)  
土層図 (1/150) 出土土器 (1/4)

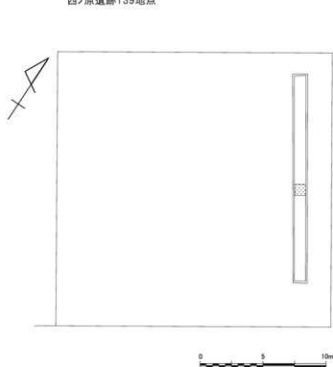
## 西ノ原遺跡137地点



## 西ノ原遺跡138地点



## 西ノ原遺跡139地点



## 第18章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禪寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2008年1月現在30地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

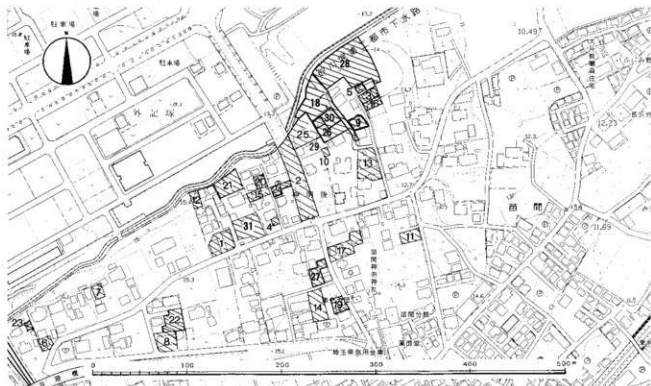
これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### II 神明後遺跡第28地点

#### (1) 調査の概要

調査は宅地造成工事に伴うもので、原因者より2006年5月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北西部、さかい川に面した斜面地に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年5月8日から同年6月2日まで行なった。2×2mのグリッドを27カ所と幅約2mのトレンチを12本設定し、グリッドは人力で、トレンチは重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、多量の縄文土器と暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに一部を掘り下げ確認したところ、縄文時代の住居跡のほか、集石、土坑、ピット、溝等であった。確認面まで50~80cmを測るが、開発計画では掘削と2m以上の盛土により宅地造成される。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図等記録保存を行い、試掘



第56図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

調査を終了した。

本調査は2006年6月29日から同年10月5日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、縄文時代の住居跡11軒、集石25基、炉穴3基、石囲八埋設土器1基、屋外埋設土器3基、奈良時代の住居跡1軒、土坑、時期不明の落し穴1基、堀1条、溝4条を調査した。

(第II部第7章神明後遺跡第28地点の調査参照)

### III 神明後遺跡第29地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年5月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地からは縄文時代の住居跡、溝等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年5月8日から同年5月11日まで行った。幅約2mのトレンチ1本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、縄文土器と暗褐色土プランを検出した。確認面まで15cmのため検出遺構を本調査することとした。

本調査は2006年5月12日から同年5月20日まで行なった。遺構の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果検出した遺構は、古代から中世の溝跡、近世以降のピットである。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。

#### (2) 遺構と遺物

【溝1】調査区中央に南北方向の溝を8m検出した。第18地点で検出した溝1に連なると思われる。北側に流れるさかい川と直交するように構築されている。

断面形態は箱菜研で、上幅175～210cm、下幅60～85cm、確認面からの深さ75～90cm。南から北へ向かって6.5度の勾配で傾斜する。

溝は下層がローム混じりの土、中層から上層は黒褐色土と暗褐色土で埋まる。

溝の側面と底面に方形ピットを10基検出したが、底面から50cm程埋没した覆土中から掘削されている。縄文土器が出土したが遺構に伴う出土遺物はない。

第28表 神明後遺跡第29地点遺構一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	箱菜研	175～210	60～85	90	
溝P1	楕円形	28×18	8×4	39	底標高12,076m
溝P2	方形	35×35	10×7	35	底標高12,786m
溝P3	方形	30×30	10×8	33	底標高12,674m
溝P4	方形	32×29	12×8	50	底標高12,750m
溝P5	方形	23×21	14×11	12	底標高12,658m
溝P6	方形	25×24	15×12	26	底標高12,495m
溝P7	方形	2522	124	40	底標高12,850m
溝P8	方形	2626	148	45	底標高12,947m
溝P9	隅丸方形	30×30	19×10	37	底標高13,230m
溝P10		32×	12×6	16	底標高12,897m
P1	長方形	55×45	8×8	35	

#### 【溝出土遺物】(第60図上1～14)

1は深鉢の区画文部の破片で加曾利E1新式。2は渦巻文と重弧文の口縁文線帯の下に頸部文線帯がつく加曾利E1新式併行の異系統土器。3と4は重弧文を加える。5～7は地文縄文に貼付懸垂文をもつ。8～10は沈線による懸垂文。11は薄手で細い斜縄文をもつが時期不明。12は条線と地文とする小深鉢で大きい列点文を入れる。13と14は無文の浅鉢片。

### IV 神明後遺跡第30地点

#### (1) 調査の概要

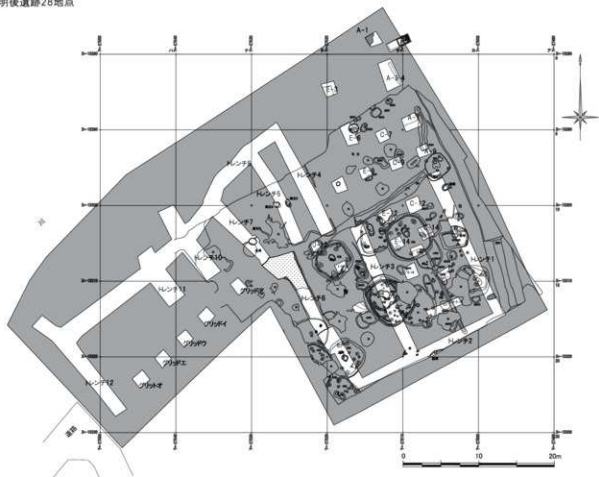
調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年5月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地からは縄文時代の住居跡、溝等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年5月12日から同年5月17日まで行った。幅約2mのトレンチ2本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、多量の縄文土器を含む暗褐色土を検出した。調査区はサカイ川に向かって傾斜する斜面で、確認面までの深さが南側の20cmに対し、北側は100cmに達する。そこで浅い南側を本調査することとした。

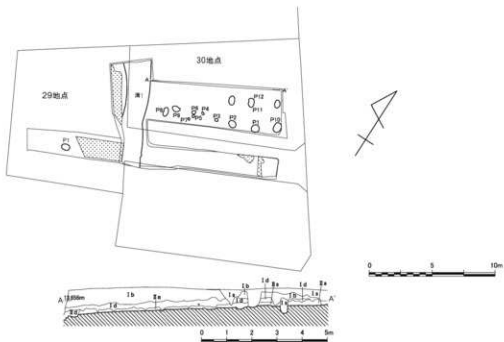
本調査は2006年12月14日から同年12月19日まで行なった。遺構の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった結果検出した遺構は、縄文時代と近世以降のピットである。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。



## 神明後遺跡28地点



## 神明後遺跡29・30地点



## トレンチ北壁

I a 緑褐色土 粘り強、粘性弱、表土、ローム塊・ローム粒(10mm以下)やや多量

I b 黄褐色土 粘り有、粘性有、表土、シミ状に緑褐色土ローム粒(5mm以下)少量、トレンチでは緑質の緑褐色土塊を含む、機土(2mm以下)

機少量目立つ、トレンチ内、縄文以外の小穴には、この緑褐色土塊を伴う黄褐色土に、ローム塊が混入した土を覆土とするものが多い

I c 緑褐色土 粘り強、粘性弱、ローム粒(3mm以下)多量、ローム塊(5~10mm)少量、溝A~A'にある

I d 緑褐色土 粘り強、粘性有、シミ状に黄褐色土を多く含む、粒状ローム粒均一に少量、機土極少量、混入物は少ない(所々、動植物によるローム・黄褐色土の混入が認められる)

II a 緑褐色土 粘り強、粘性有、シミ状にローム塊(百層土)多量、シミ状の黄褐色土少量、全体としてはうっすらと斑状を呈する、ローム粒(1mm以下)少量、機土極少量、縄文遺物を含む

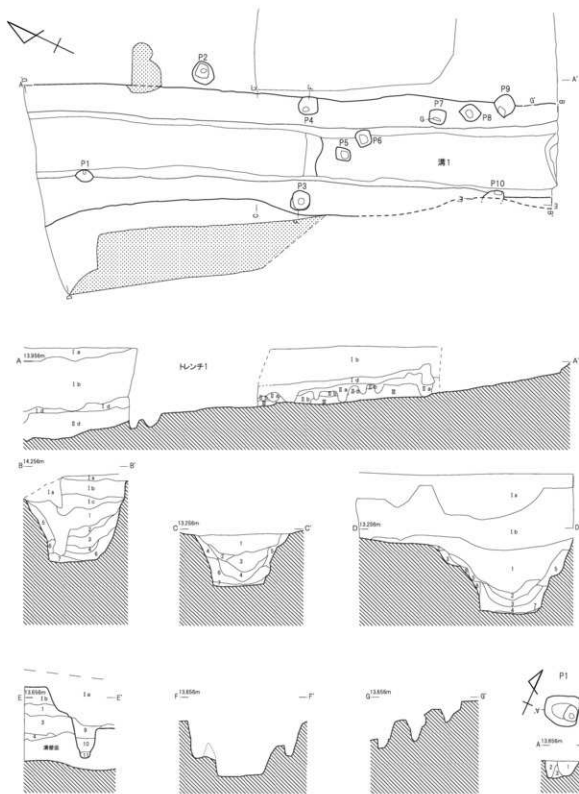
II b 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム中に色調明ない・暗褐色土が入り込んでおり、うっすらと斑状を呈する、所々ハードローム粒を含む

縄文遺物を含む

II c 緑褐色土 粘り強、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)やや多量、硬質黒色土粒(3mm以下)少量、特徴的に含む

II d 黄褐色土 粘り強、粘性有、地山ローム

第57図 神明後遺跡第28・29・30地点遺構配置図(1/500・1/300) 土層図(1/150)



溝

- 1 a. 暗褐色土 餅片有、粘性强、ローム塊(20mm以下)やや多量、ゼニール含む黄土。含有物は異なるが基本はレンチ I a・b層と同じ  
 1 b. 暗褐色土 餅片有、粘性强、ローム粒(2mm以下)均一少量、灰色粘土(8mm以下)、黄土(1~10mm)極少量、表土、含有物は異なるが基本はレンチ I a・b層と同じ  
 1 c. 暗褐色土 餅片有、粘性强や中弱、ローム粒(3mm以下)多量、ローム塊(5~10mm)少量、表土か  
 1. 黒褐色土 餅片有、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、細かな黒灰色粘土塊(10mm以下)が、中央部分に多く含まれる、ピット状の落ちこみ内には、細かなローム粒が塊状に集中して含まれる  
 2. 黒褐色土 餅片有、粘性有、色調は明心的、ローム粒(1mm以下)極少量、礫(2~6cm大)少量  
 3. 暗褐色土 餅片有、粘性有、シロ状にローム土をやや多量、うすらと斑状を呈する  
 4. 暗褐色土 餅片有、粘性有中弱、暗褐色土ベースでローム粒(3mm以下)主体  
 5. 暗褐色土 餅片有、粘性有、暗褐色土ベースでローム粒(3mm以下)多量、シロ状黒褐色土(1.5cm以下)が目立つ、ロームを含み色調不明  
 6. 黄褐色土 餅片有、粘性有中弱、ローム粒(5mm以下)主体、シロ状に暗褐色土少量  
 7. 黒褐色土ベース 餅片有、粘性强、粒主体ローム塊(30mm大)、塊間を暗褐色土や色調不明の暗褐色土が埋める  
 8. 黄褐色土 餅片有、粘性有、ローム主体、ソラ質で暗褐色土と少し異なる、地山が露れたものか

ピット1

1. 暗褐色土 餅片有、粘性有、細かなローム粒(5mm以下)多量、中程に塊状に集中する
2. 暗褐色土 餅片有、粘性有、1層に比べ色調暗く黄色っぽい、細かなローム粒(5mm以下)多量
3. 暗黄褐色土 餅片有、粘性有、暗褐色土ベースローム粒(3mm以下)主体、黒褐色土塊(1cm)少量

第58図 神明後遺跡第29地点溝・ピット (1/60)



## (2) 遺構と遺物

【ビット】P1～6・10は新しく、P7～9・12・13は覆土から判断して縄文時代と思われる。

第29表 神明後遺跡第30地点遺構一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	65×65	15×9	26	近世以降
P2	楕円形	60×55	8×8	40	近世以降
P3	楕円形	36×23	5×5	19	斜向ビット、近世以降
P4	楕円形	25×14	8×5	9	近世以降
P5	楕円形	27×20	5×3	13	近世以降
P6	円形	35×32	8×7	15	近世以降
P7	楕円形	30×25	8×5	14	
P8	円形	43×40	25×12	27	
P9	楕円形	82×70	10×10	54	斜向ビット(試P3)
P10	楕円形	85×60	12×6	48	近世以降
P11	円形	50×	23×10	24	P12より古(試P4)
P12	円形	50×	15×15	21	P11より新(試P2)

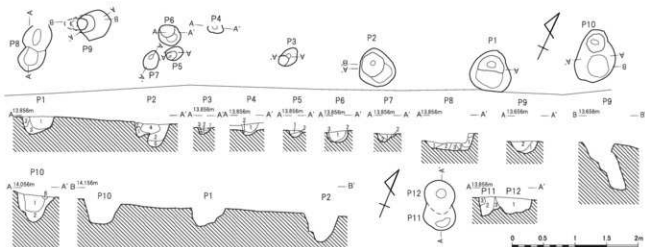
## 【試掘調査出土遺物】(第60図中15～40)

15は胎土に金雲母を多く含む指頭圧痕をもつ。16は折返状に縄文を押圧し時期不明。17は地文縄文で区画文をもつ口縁部。18は地文縄文で沈線の懸垂文をもち17と18は加曾利E I式新相。19は平板な渦巻区画文をもつ口縁部。20～22は地文縄文の連弧文土器口縁部。23～24は地文条線の連弧文土器。25は地文条線の連弧文土器片。26は押圧縄文。27は太い条線を地文とし

隆帯懸垂文をもつ。28は頸部から胴上部片。29～31は条線を地文とし、32～35は条線を地文とする胴部片。36～38は無文浅鉢。39は有孔罅付土器。40は砂岩製小形打裂石斧。重さ51.5g。

## 【本調査出土遺物】(第60図下1～23)

1の胎土には石英・雲母を多く含む。2は渦巻文部片。3は区画文の口縁から無文帯上部片。4は地文沈線の区画文と無文帯。2～4は加曾利E I新式の新相。5は地文条線で2本組隆帯を加える。6は深鉢の頸部に蛇行文をめぐらす動物状貼付文が著しい。7は地文縄文の波頭部口縁。8は地文縄文に2本組沈線を入れる。9～11は地文縄文で沈線を入れる。12は地文縄文に渦巻を入れる。13と14は地文縄文のみの胴部片。15は無文口縁で体部は櫛状工具による条線を地文とする。16と17は太い条線を地文とする。18は口縁部文様帯と体部文様の区分はあるが胴部は沈線のみ。19と20は碗形土器である。胴部は多方向施文で、19は口縁に列点文、20は無文、21は同類の体部。22は地文縄文で逆U字を残して磨消す。8～11は加曾利E II式、19～21は加曾利E III式。23は側面調整が著しい土鉢状土製品。



## ビット 1-2-10 (近世以降)

1. 黒褐色土 細砂、粘性有、ローム塊(0.5～1cm大)やや多量、ローム粒(3mm以下)少量、灰色土粒(3～5mm)少量
2. 黒褐色土 細砂有、粘性有、ローム塊(2cm大)少量、ローム粒(2mm以下)少量
3. 黒褐色土 ベース 細砂有、粘性有、ローム塊(1cm大)主体、ローム粒(5mm以下)やや多量
4. 暗褐色土 細砂有、粘性やや強、ローム粒(3mm以下)・黄白色土粒やや多量(加熱したものか)
5. 暗褐色土 ベース 細砂有、粘性有、ローム主体、ローム塊(0.5～1cm)多量
6. 暗褐色土 ベース 細砂有、粘性有、粘土(5mm以下)多量、灰色土やや多量、黒褐色土少量

## ビット 3-4-5-6 (近世以降)

1. 黒褐色土 細砂有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、黄白色土粒少量
2. 黒褐色土 細砂有、粘性有、ローム塊(0.5～1cm)やや多量、ローム粒(3mm以下)多量、黒色土塊(7～8mm)少量、粘圧を付いている
3. 暗褐色土 細砂有、粘性有、色調暗めのローム土主体、礫(10mm以下)わずかに混入

## ビット 7-8 (縄文時代)

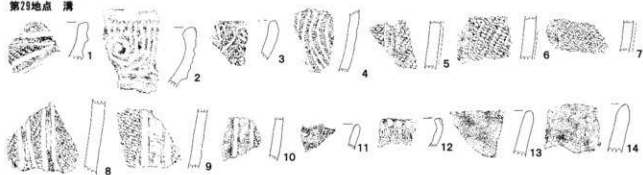
1. 暗褐色土 細砂有、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、P7では、硬混入、試掘時P11-12の3層相当
2. 暗褐色土 細砂有、粘性有、ローム土をシタに含む若干面状を見出す、ローム粒(3mm以下)少量、試掘時P11-12の3層相当
3. 暗褐色土 細砂有、粘性有、ローム土主体で暗褐色土をシタに含む

## ビット 11-12

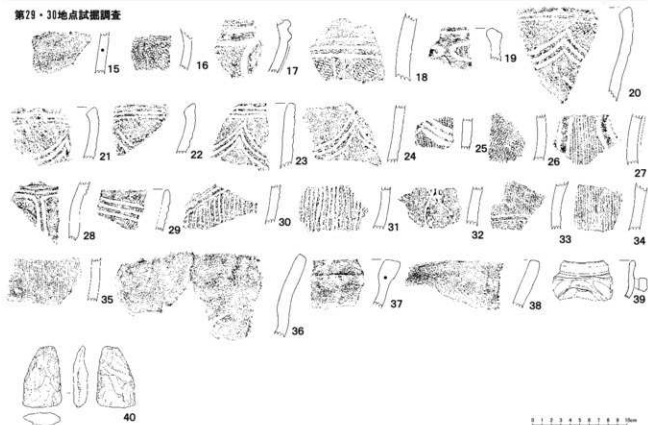
1. 暗褐色土 細砂有、粘性有、ローム粒(2mm以下)均一に少量、シタローム塊(50cm大)少量、粘状混入わず
2. 暗褐色土 細砂有、粘性有、1層に比しローム粒径大きく全体の色調暗い、ローム粒(3mm以下)均一に少量、炭化物(1～2mm)わず
3. 暗褐色土 細砂有、粘性有、2層に比しシタローム土多量、色調明るめ、粘状ローム少量、炭化物(1mm大)わず

第59図 神明後遺跡第30地点ビット (1/60)

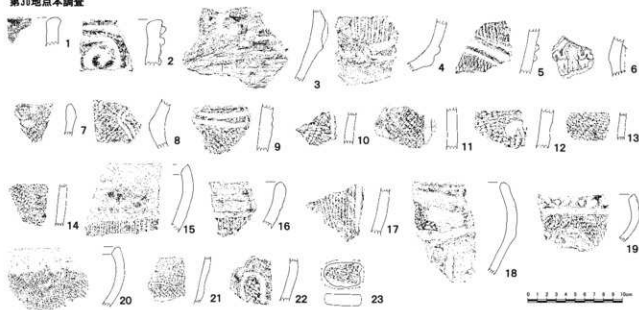
## 第29地点 溝



## 第29・30地点試掘調査



## 第30地点本調査



第60図 神明後遺跡第29地点溝・遺構外、30地点出土遺物(1/4)

## 第19章 浄禪寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

浄禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を浄禪寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は早々に市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

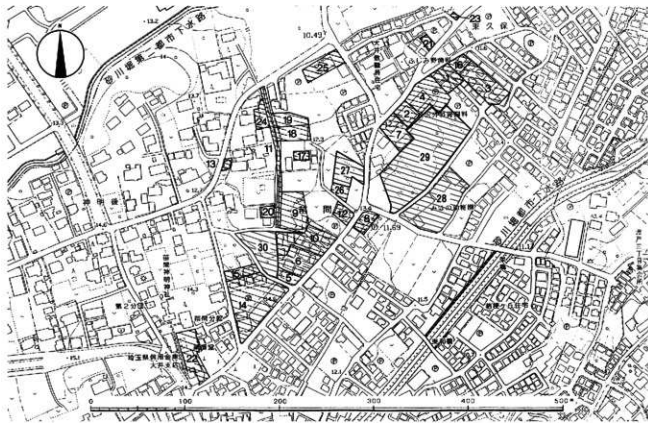
2008年2月現在30ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禪寺墓域から土壘墓157基、1字1石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失してしまい再建されていない。

### II 浄禪寺跡遺跡第26地点

#### (1) 調査の概要

調査地は以前分譲住宅建設として2005年2月23日付けで申請され、2005年3月に試掘調査済であるが、開発行為の変更があり、今回個人住宅建設として新たに2007年4月10日付けで1件(A区)、同年6月7日付けで1件(B区)、計2件の原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。

本調査はA区を2007年4月17日から同年4月28日まで、B区を2007年6月7日から同年6月15日まで行なった。重機で表土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果、縄文時代の炉穴10基、土坑8基、ピット21基、近世の溝1状を検出した。旧石器時代の調査は行っていない。写真撮影・全測図等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。



第61図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第30表 浄輝寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保579	1979.4.3～4.21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み 炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群Ⅰ
2	苗間東久保573	1982.4.1～4.3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み 遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群Ⅱ
3	苗間東久保581	1984.7.20～7.21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄輝寺3地点とする 遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後346-1	1989.11.15～11.25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、 縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群Ⅹ
5	苗間374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群Ⅰ
6	苗間358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	苗間東久保573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草～中期	調査会報告5集
8	苗間357-1	(1994.9.20～9.27)	615	宅地分譲	落し穴、根切溝	町内遺跡群Ⅳ
9	苗間353	(1994.10.18)	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅳ
10	苗間356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土塚、一石経塚納土坑、 六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	溝水口	町内遺跡群Ⅳ
12	苗間35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、 縄文中期土器、磁器	町内遺跡群Ⅴ
13	苗間314-2	(1996.1.8～1.29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、 縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	苗間360-1,362-2	(1996.6.3～6.12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	竪群3、落し穴1、溝4、ピット251、 旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅵ
15	苗間362-4-5	(1996.6.3～6.12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群Ⅵ
16	苗間579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄 文早期後半、前期、中期	町内遺跡群Ⅶ
17	苗間345-2-10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群Ⅶ
18	苗間345-3-4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝 縄文後期土器、土器	町内遺跡群Ⅷ
19	苗間神明後345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘 立5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、 板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後351-1	(2001.10.26～10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群ⅩⅠ
21	苗間東久保591-3,592-7	(2001.11.19～11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅠ
22	苗間373-5-8,377-5-3-4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
23	苗間592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
24	苗間神明後346-1-2の一部	(2004.8.30～8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
25	苗間359-1-2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群ⅩⅡ
26	苗間神明後354-2の一部	(2005.3.3～3.8) 2006.4.17～28,6.7～15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.23	696	新設道路築造 分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋塞2、土坑117、 ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間宇東久保719-7,720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改装工事	溝2	市内遺跡群3

## (2) 遺構と遺物

【炉穴】調査区の全域に渡って2～7mの間隔をもって炉穴が点在する。炉穴2・5～10は土坑内に平坦面があり足場部分と思われる。出土遺物から遺構の時期は縄文時代早期。

【土坑】調査区の全域に渡り2～7mの間隔をもって、円形もしくは楕円形の土坑が点在する。土坑1～7は浅いが立ち上がりはしっかりしている。土坑8は袋状の土坑で土器・礫が多量出土する。出土遺物と覆土から土坑は全て縄文時代の遺構。土坑2は中期初頭、土坑7は前期、土坑4・8は後期。

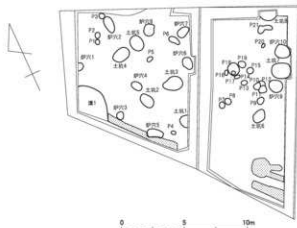
【ピット】調査区東側に集中する。P1～12は出土遺物と覆土から縄文時代、P13～19は覆土から時期が新しく根痕と思われる。

【溝】調査区南西隅に検出した。西から南へ曲がる部分で、溝は西と南に向って調査区外へ延長する。断面形態は幅の狭い「V」字形を呈す。縄文土器が出土するが、覆土から遺構の時期は中世以降。

第31表 淨禪寺跡遺跡第26地点遺構一覧表 (単位:cm)

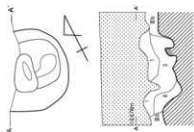
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
炉穴1		64×	15×4	37	焼土面7cm、調査区外未掘
炉穴2	楕円形	142×72	118×54	20	焼土面60×40cm、足場有り、土器出土・礫多量出土
炉穴3	楕円形	70×48	38×25	9	焼土面42×15cm
炉穴4	楕円形	98×65	61×48	19	焼土面60×48cm
炉穴5	楕円形	133×56	95×20	19	焼土面45×28cm、足場有り、礫出土
炉穴6	楕円形	104×75	93×42	20	焼土面①25×23cm、焼土面②25×21cm、足場有り
炉穴7	楕円形	97×82	70×58	18	焼土面42×40cm、足場有り、土器出土

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
炉穴8	不整形	95×84	75×60	15	焼土面42×30cm、足場有り、土器出土
炉穴9	楕円形	110×88	72×56	24	焼土面46×40cm、足場有り、土器出土
炉穴10	円形	117×114	84×80	24	焼土面32×23cm、足場有り、土器・礫出土
土坑1		90×	70×	14	調査区外未掘
土坑2	楕円形	116×90	90×62	30	土器・礫出土
土坑3	ヒョウタン	150×114	105×105	26	土器・礫出土
土坑4	楕円形	140×105	104×74	30	底面にピット深さ60cm、土器・礫出土
土坑5	楕円形	124×104	90×74	20	土器・礫出土
土坑6	楕円形	112×80	88×58	30	土器・礫出土
土坑7	楕円形	145×125	125×103	48	土器・礫出土
土坑8		124×	114×	52	調査区外未掘、土器多量出土・礫出土
P1	楕円形	42×35	20×15	29	
P2	円形	52×48	40×24	14	
P3	円形	47×40	25×24	21	
P4	楕円形	45×38	18×15	20	
P5	楕円形	42×36	24×15	28	片岩出土
P6	楕円形	82×44	20×16	32	土器出土
P7	楕円形	37×32	17×14	42	
P8	円形	53×52	39×35	16	磨石出土
P9	円形	56×55	28×24	45	
P10	楕円形	55×45	45×35	16	P11、P12と重複P11より新
P11	楕円形	46×40	36×30	13	P10、P12と重複P10より古、土器・磨石出土
P12	楕円形	46×42	12×7	26	P10、P11と重複、土器出土
P13	楕円形	40×32	24×16	25	根痕
P14	楕円形	52×36	31×25	27	根痕、土器出土
P15	円形	52×48	24×18	29	根痕
P16	円形	36×32	20×16	50	根痕
P17	円形	34×32	6×6	74	根痕
P18	楕円形	90×80	76×64	24	根痕、土器出土
P19	円形	62×60	32×32	28	根痕、土器出土
P20	楕円形	32×26	10×6	19	
P21	円形	20×18	4×4	28	
溝1	V字形	～	35～65	208	L字形に屈曲する

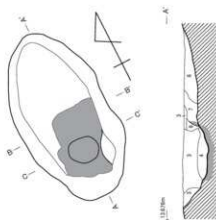


第26図 淨禪寺跡遺跡第26地点遺構配置図 (1/300)

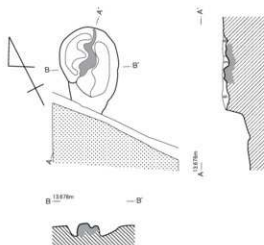
炉穴1



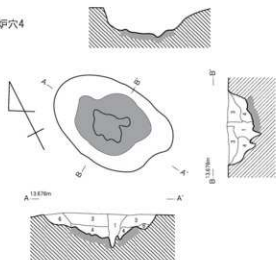
炉穴2



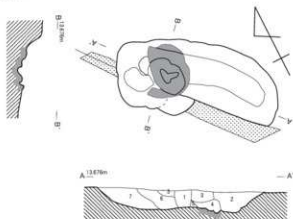
炉穴3



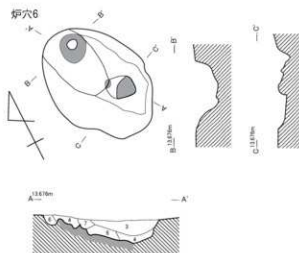
炉穴4



炉穴5



炉穴6



## 炉穴1~7

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有。シミ状に黒褐色土を食み、色調暗い。ローム粒(3mm以下)・焼土やや多量
- 2 赤褐色土 締り有、粘性やや弱。炉穴5にある層。層のクランによるものか、締りが高い。細かい炭土分(1mm以下)多量、赤味が有る
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有。焼土(5mm以下)やや多量、ローム粒(2mm以下)少量。
- 4 赤褐色土 締り有、粘性やや弱。焼土(5mm以下)多量。
- 5 暗褐色土 締り強、粘性有。焼土粒・ローム粒(5mm以下)少量、締りがよい
- 6 暗褐色土 締り強、粘性有。シミ状にローム土を食む。焼土(2mm以下)少量。色調は地山に似て暗るい
- 7 暗褐色土 締り強、粘性有。6層に似るがシミ状のローム土が少なく、色調暗い。焼土・ローム粒(2mm以下)少量。
- 8 暗褐色土 締り強、粘性有。炉穴2にある層。炉穴5北部集積層の土。焼土薄(1.5mm以下)上部までやや多量、焼土(2mm以下)多量。炭、土器片含む

第63図 淨禪寺跡遺跡第26地点炉穴1~6 (1/30)





## 【炉穴出土土器】(第70図1～5)

1と2は2号炉穴出土で胎土には植物繊維を含む。3は7号炉穴出土で素焼り縄文。4は8号炉穴出土で素糸文。5は9号炉穴出土で共に素焼りの縄文。他の炉穴から遺物は出土しなかった。

## 【土坑出土土器】(第70図6～39)

6～10は2号土坑出土。6は素糸文、7～9は結節縄文をもつ五領ヶ台式。10は細縄文押圧の口縁部。

11～13は3号土坑出土。11と12は胎土に繊維を含む。14は4号土坑出土で縄文のみ。15は4号土坑出土の深

鉢の把手で貫通する円孔と沈線が表裏ともに著しい。

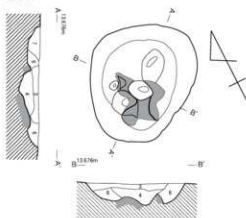
16は5号土坑出土の無文片。17～20は7号土坑出土で17と18は胎土に繊維を多量含む。

21～39は8号土坑出土で弧状磨削内に刺突文を入れる類で縄文を欠き称名寺2式である。33は口縁下に8字状貼付文をもつ大深鉢。34～36は口唇に沈線文と刺突文をもつ浅鉢。38は無文浅鉢口縁部。37は浅鉢の副部片。39はチャート製楔型石器。

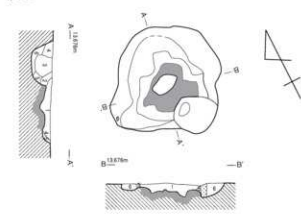
## 【ピット出土土器】(第70図40～51)

40と41はP6出土でJ字状に地文の細縄文を残す称

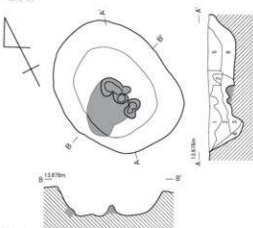
炉穴7



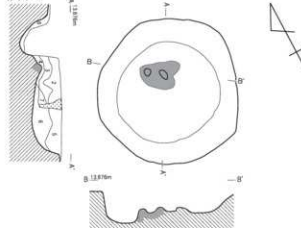
炉穴8



炉穴9



炉穴10



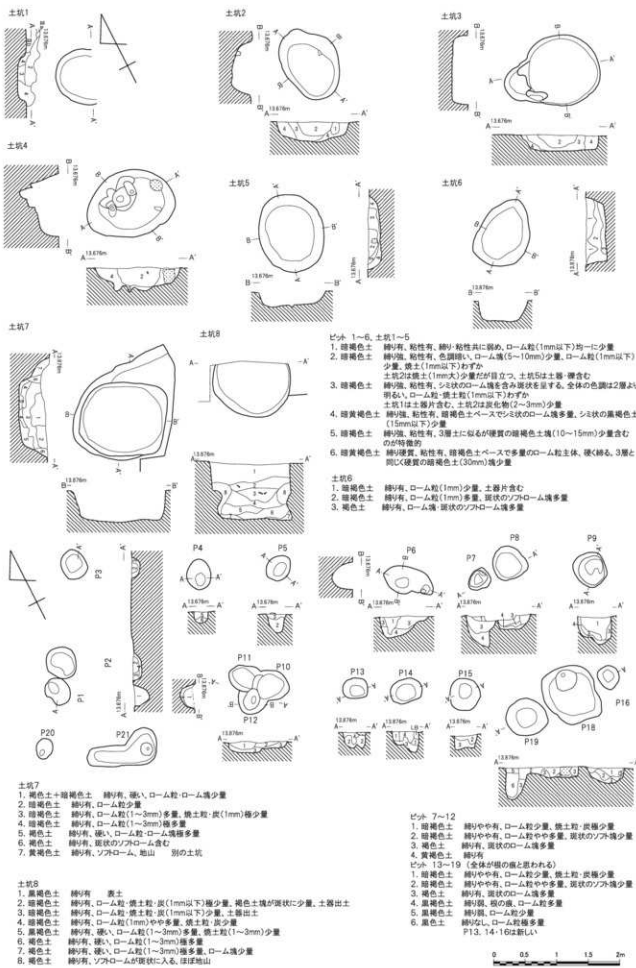
炉穴8

1. 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、焼土(5mm以下)多量、乾いたローム粒(2mm以下)少量
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、焼土(2mm以下)多量、粘性弱め
3. 暗褐色土 粘り有、粘性有、焼土(3mm以下)少量、ローム粒(3mm以下)多量、炭化物(1mm以下)極少量
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シタビロームが多含ま、色濃明ぬい、焼土(2mm以下)炭化物(1mm以下)極少量
5. 暗褐色土 ベース 粘り有、粘性弱、ポソバル土暗褐色土ベースに被熱して黄白色化したローム塊多量
6. 暗褐色土 ベース 粘り有、粘性有、暗褐色土ベースにシタビローム塊、焼土(1mm以下)極少量

炉穴9-10

1. 暗褐色土 粘り有、焼土粒(0.5mm)極少量
2. 褐色土 粘り有、焼土粒(1～3mm)、やや多量ローム粒(1mm)少量
3. 褐色土 粘り弱、焼土粒(1～3mm)極少量、ローム主体
4. 焼土塊
5. 褐色土 粘り有、ソフロームが顕状に少量(ピット土層の2層と同じ)
6. 褐色土 粘り有、ソフロームが顕状に多量、ローム塊少量(ピット土層の3層)
7. 褐色土 粘り有、6層に焼土粒少量

第64図 淨禪寺跡遺跡第26地点炉穴7～10 (1/30)



第65図 浄淨寺跡遺跡第26地点土坑・ピット (1/60)